

Y994-J8437



\*1200801491265\*

321  
128

阿里山

登山者此花也

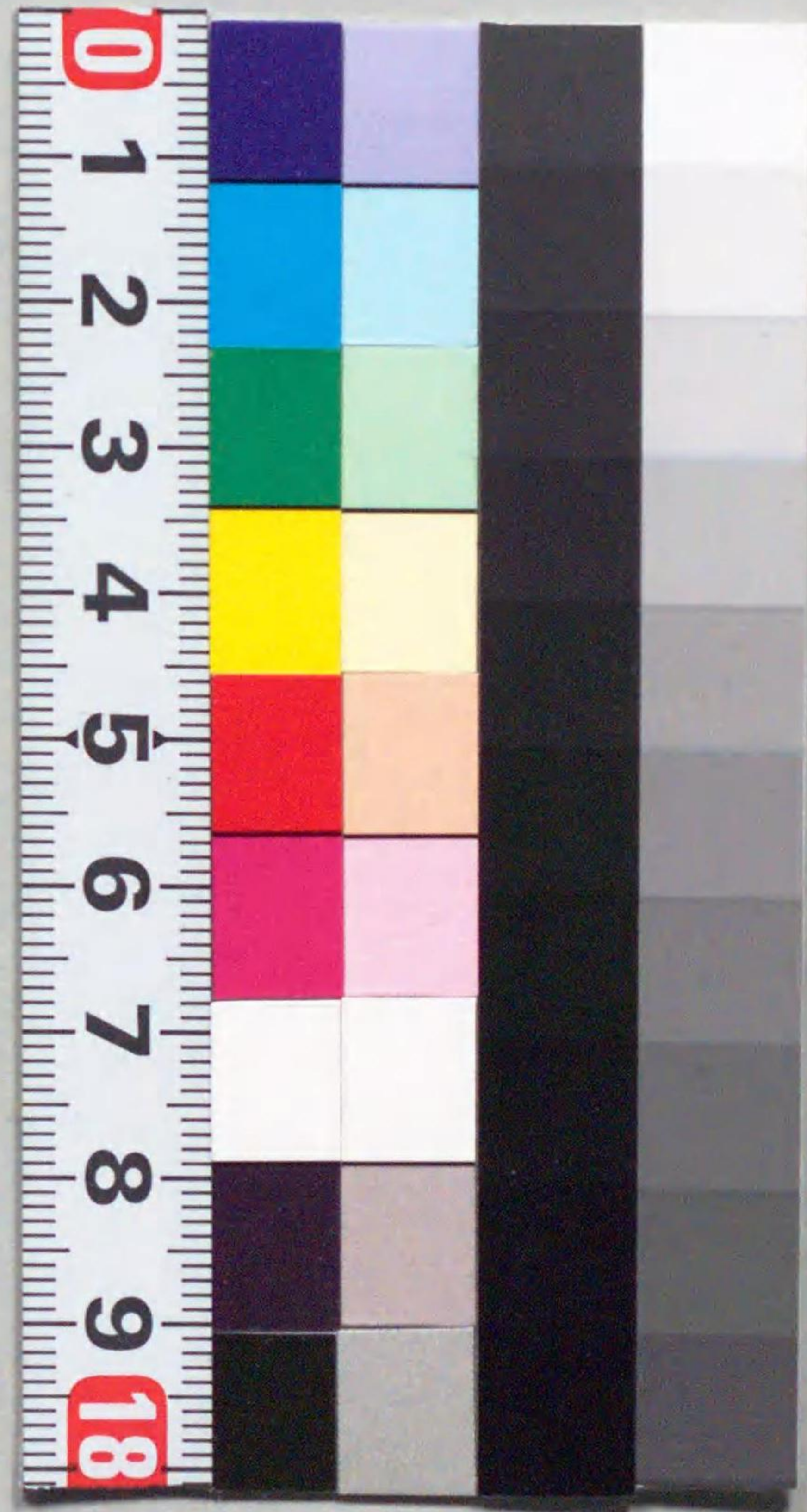
新高山

臺灣總督府森林所



たいりんとまさら

*Pleione formosana* Hay.



Y994

J8437



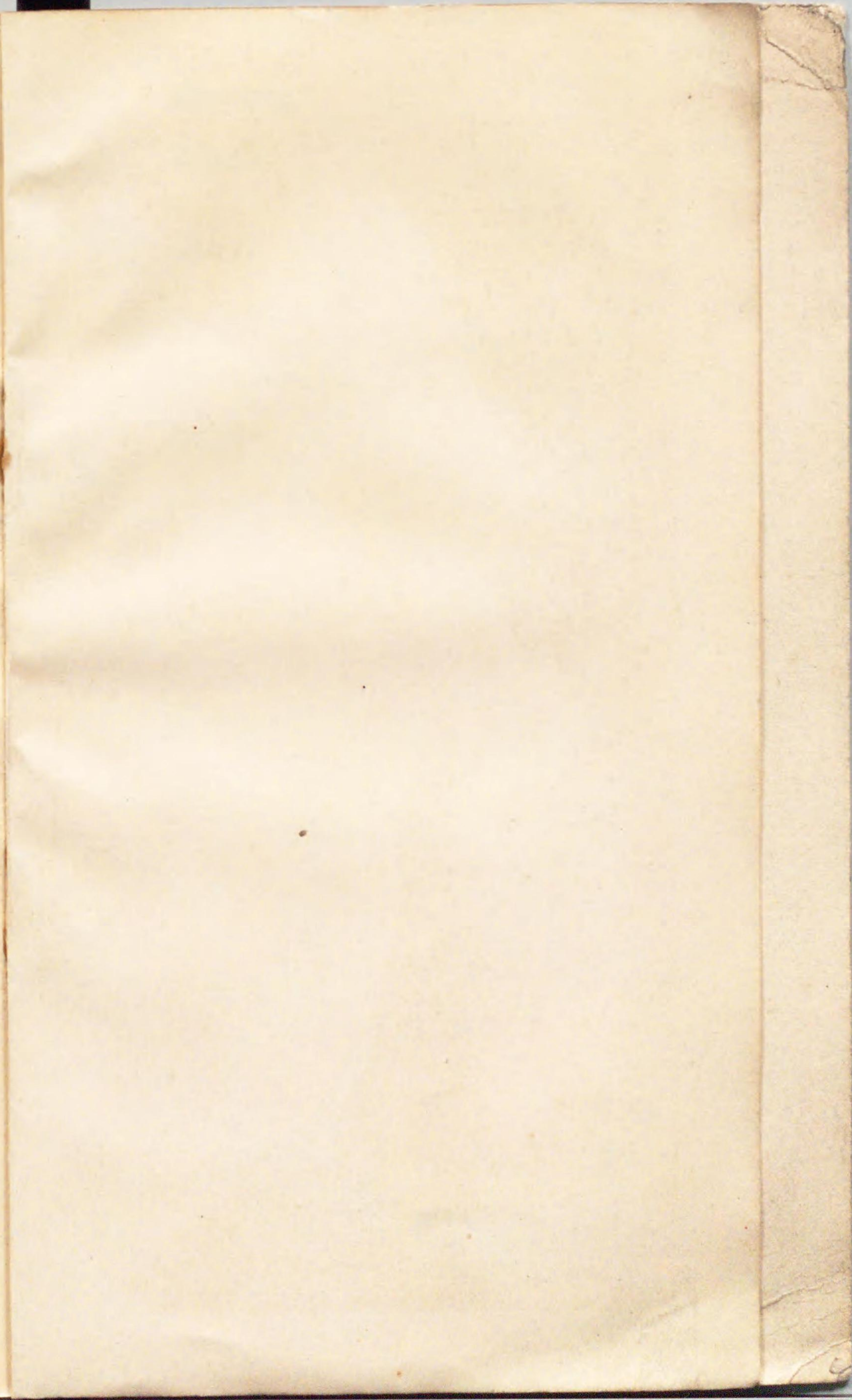
I 種

W



\*1200801491265\*

阿 里 山 雲 海



崖 斷 山 塔



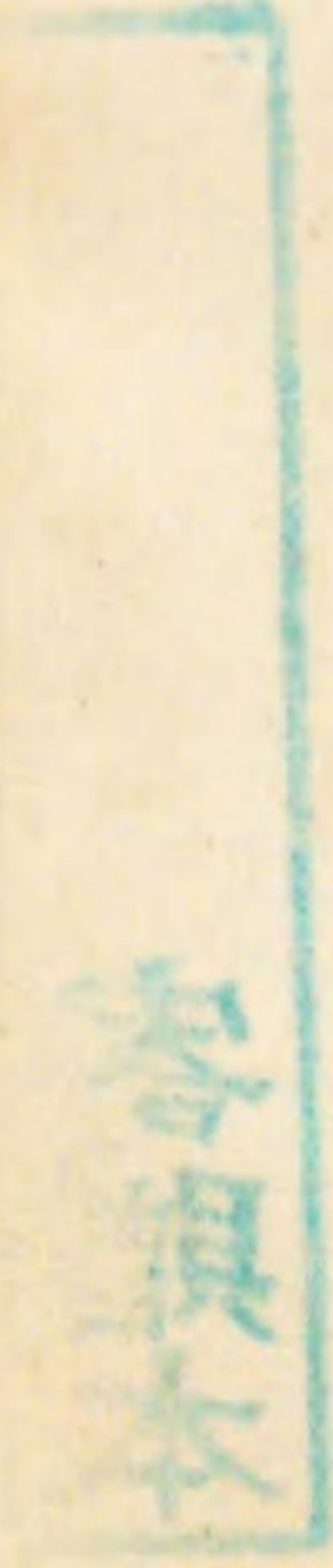
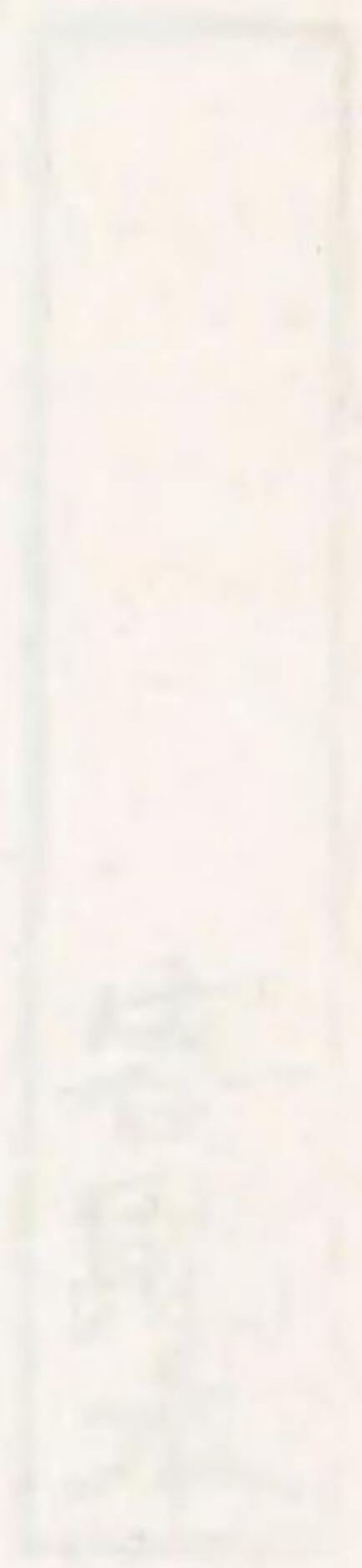
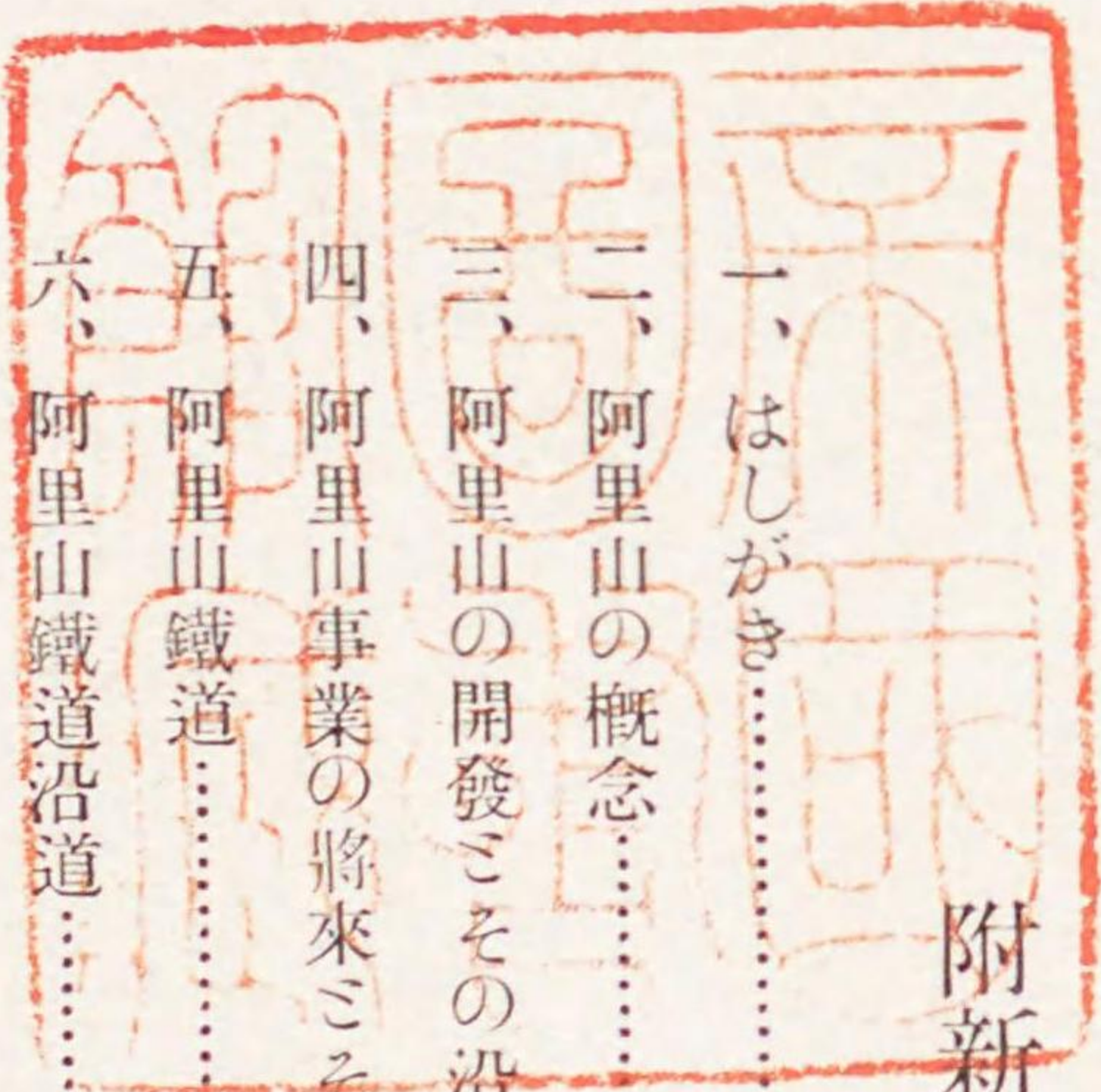
阿里山よりの新高山を望む



# 阿里山登山者のために

## 附新高登山案内 目次

一、はしがき.....	一
二、阿里山の概念.....	二
三、阿里山の開発とその沿革.....	三
四、阿里山事業の將來とその施業計畫.....	六
五、阿里山鐵道.....	七
六、阿里山鐵道沿道.....	二二
七、學科より觀たる阿里山.....	三六
(附)新高登山案内.....	四三



## 阿里山登山者のために

### 一 はしがき

阿里山は開發以來多くの機會と種々の報道機關によつて紹介されて來た然し阿里山の名が世界的になつたことは必ずしもその宣傳の賜ではなくてその實の然らしむるところ、蓋し偶然ではない、登山の愛好者たる歐米遠來の客は勿論内地母國の觀光客や其の他あらゆる臺灣視察の旅客はその旅行日程に阿里山視察を組めない人は殆んど稀である、それほゞ阿里山は我臺灣にまつては唯一の名所になつた従つて阿里山の事情は今更反復の要もないかの感もなきにしもあらずであるが世間の紹介や實地視察者の觀察の中にも事業地としての阿里山觀に於て寧ろ誤り傳へられた向も却々に尠くないのである、今はその誤り傳へられた阿里山のために敢て一斑を述べて曠く阿里山登山客のためには豫備智識もなり登山案内もなるべくその梗概を述べて見たい。

## 二 阿里山の概念

臺灣縦貫鐵道嘉義驛の東方四十四哩此處は臺南州下嘉義郡の奥であつて北緯二十三度半恰度北回歸線上に位置してゐる、臺灣脊梁山脈の中樞、新高山の西山に連る一支脈、海拔七千三百尺その最高峰は八千七百尺の大塔山である、通常阿里山森林を稱するのは營林所によつて經營されつゝある事業地一帯の總稱であつて俗に沼の平を稱するところは事務所の所在地であり事業の中心地である、阿里山事業地を廣く云ふ場合には廣大な面積に互るのであるが現在營林所の所管してゐるこの面積は鐵道沿線に屬する部分を除いて一二、一三三町歩の地域を云ふのである、此の外に阿里山鐵道の沿線造林豫定地が約五千六百町歩ある、是等の地域に包藏された森林は針葉樹、闊葉樹のあらゆる樹種を包含してゐる所謂人口に膾炙してゐるこのころの扁柏即ちひのき學名を *Chamaecyparis obtusa* S. et Z. 云ふ、次に紅檜にひのき *Chamaecyparis formosensis* Mats. 亞杉あさん(たいわんすきとも云ふ) *Taiwania cryptomerioides* Hay. 榲が *Tsuga chinensis* Pritzal, たかねづら(俗に姫子松云ふ) *Pinus Armandi* Franch. 以上を阿里山五木と稱して阿里山森林中の針葉樹中の白眉である、殊に最も豊富なのは扁柏と紅檜であつ

て、又優等樹種である、茲に特に述べなければならぬことは阿里山の扁柏は其の比重内地産のものよりも幾分重く亦多少赤味を帯びて居るやうであるが、其の他の點に於ては内地産と毫も逕庭がない、二・三年水蓄したものに於ては木會産のものも全然異なる所なしと謂はれて居る、眞に現代稀に見る良材である、近頃米國西海岸地方より米檜を輸入する、ものあるがこれは扁柏に似たる處あるも比重著しく軽く質輕我阿里山材の特長とするところである。



相林きのひ山里阿

軟で其の光澤は寧ろ唐檜に近く到底阿里山扁柏に比すべくもない、殊に幅廣の柁板、柁目板、四方柁挽角、長大丸太の如きは

されば内地に於ける著名の社寺、佛閣の新に建築せらるゝに當つては毎に我阿里山は用材伐



出の光榮を擔つてゐる、彼の檜原神宮、桃山御陵、笹崎八幡宮等皆然りである、特に彼の明治神宮大華表は實に阿里山材の大いなる光榮である、その他久邇宮御常殿用材として御用ありしを初め帝國軍艦用材として多大の需要がある。

次に潤葉樹に至つては櫛類、柯仔、楠仔、烏心石などの優良材があるが此等は建築用材の外種々の器具、家具、兵器、車輛用材として廣汎の用途を持つてゐる。

阿里山森林が斯く豊富なる樹種と老木の生長を遂げた素因は氣温、濕度、その和を得て地形大森林の成立に適合したからであるが今その森林分布の状態について見るに恰も暖帶の上部より、温帶に至り垂直的森林帶上有用針潤葉樹種の生育に好適する地域に跨つてゐるのである、即ち此の地は臺灣南部に屬するのであるから水平的に見れば正しく熱帶林地であるが、垂直的に觀るときは實に熱帶、暖帶、温帶の三帶に跨つてゐるのである、海面高大約二千五百尺に至る迄は熱帶林で阿里山登山鐵道によつて示せば略獨立山附近迄はこの圏内に屬するのである、この森林帶の主木は、榕樹、赤榕、へご、檳榔、龍眼、いぬびは等である、二千五百尺から五千七・八百大凡六千尺に至る間は暖帶に屬して恰も平遮那附近を暖帶の上部と云へようこの林帶

の主木は櫛、柯類であつて尙常綠潤葉樹帶であるが人工造林によるときは針葉樹も旺盛な生育を遂げるこゝが出来るのである、現に水社寮、トロエン附近を中心に登山鐵道の車窓より天然潤葉樹林の伐採跡に殖林せられた廣葉杉、内地杉等の針葉樹が非常な生長力を以て發育しつつ、ある狀況を見るこゝが出来る、六千尺以上約九千尺に至る間を温帶林と稱へ所謂針葉樹帶に入るのである勿論之は大體の區分に過ぎないのであるから暖帶の上部と温帶の下部に於ては幾分針潤混淆林を現出している針葉樹の内でも標高の低いところに生育するものは阿里山に於ては紅檜である汽車が平遮那を過ぎて二萬平近くに至れば林中に紅檜の巨幹がポツリ／＼姿を現はすのを目撃する其の附近は即針潤混淆林である、それから櫛類は次第に姿を没して針葉樹の純林となるのであるが勿論純林と云つてもその下木としては潤葉樹の或ものは生育してゐる概ね紅檜の純林ではなく扁柏、紅檜、亞杉等の混淆林である更に標高を増すに従つて遂には扁柏を主とする林相を出現し次で松、榎に移り更に檜松を主とする寒帶林に推移するのである、汽車に乗りながら味ひ得る林相の變化推移の興味は實に阿里山鐵道に於てのみ得らるゝものと思ふ。

阿里山は檜の産地として宇内に名聲を博した、蓋しかくの如き美林をしかも原生林に於て見出し得る事は臺灣の誇りすべきものである。

阿里山は總督府營林所の所管する一斫伐事業地であつて事務所の所在地沼の平附近は宛然一文化村を形成してゐるやうの感があつて山上常住の人口は千以上に及び八千尺上斯くの如き開化を見ては何人も奇異の感をなすであらう、そして一度山上の客となつては俗塵を忘れたかのやうにしかも亞熱帶の異郷に在るを知らないもの、如くである、阿里山は四季を通じて暑熱を知らぬ、されば盛夏三伏の候も日中華氏七十五度以上に上らず冬季も尙三十度を下らぬのである、蚊、蚤の棲息せないためにマラリヤ等の風土病はない、又その雄大な天然の景觀は造物者が遺した一偉業として推賞を禁じ得ない茲に於て阿里山は絶好の避暑地として又遊覽地として汎く内外に知らるゝ、まゝころとなつた、尙ほ最近阿里山から新高登山道路の開鑿工事が成り嘉義から僅かに往復三日間にして本邦第一峰の絶嶺を極めるここが出来るやうになつた。

### 三 阿里山の開發とその沿革

一八九九年即明治三十二年臺南廳の一官吏が蕃界探險の際一大密林を發見したこれが所謂阿

里山森林であつた、越つて三十五年臺灣總督府鐵道部では縦貫鐵道建設に當つてその用材を本森林から伐出さうと試みた、曾文溪の水利を利用する計畫であつたが急流で處々に飛瀑となつてあまつさへ凡百の岩石は溪の到るまゝに散在してゐるまゝ云ふ有様に遂にその計畫は拋棄せられたのであつた。

その後河合林學博士に囑して本森林の踏査をなすこと、なり博士の調査が發表せらるゝ、まゝに總督府はこの無盡の寶庫を開拓すべく決定したのである。

越つて三十六七年に至つて再調査を遂げ果して如何なる方法によつてこの大なるそして多量の木材を搬出すべきかについて種々研究せられ探究の結果は安全に、確實に而かも能力の點から鐵道によることが最も良策であり他によりよき方法がないと云ふので現在の鐵道建設に決したのである、茲に於て一日も早くその實現を見んもの事業の具體案は提出せられたが時恰も我日本は東洋平和の爲に大強露國を向ふに廻して乾坤一擲の砲火を交へ義に燃ゆる國家の意氣を列強に示さんとしてゐた際にて此の種事業を顧みるの餘裕なく開發の豫算は不成立に終つた、然し乍ら大なる期待を持つこの計畫をあたらず中絶するに忍びず遂に藤田組によつて督府の

企畫は繼承さる、事となり直ちに詳細の森林調査は行はれたのであつた、その調査によるこの森林の内容は次の如きものであつた、勿論これは今日に於ける阿里山森林の全部ではなかつたのである。

針葉樹林	一、八二九町歩	
針澗混淆林	三、三八一町歩	
澗葉樹林	四、三〇六町歩	
草生地	一、五八四町歩	
計	一一、一〇〇町歩	
	(單位石)	
扁紅亞姫榲	四、一三二、六七八	平均一本ノ材積 石 二七・七七
紅	五、二八五、三五二	三三・九三
亞	二二三、二四二	四三・八五
姫	二八五、五七四	二〇・五九
榲	六七九、五九九	一四・四九
計	一〇、六〇六、四四五	

澗葉樹		
櫛柯樟赤雜	三、二五一、六一三	一一・二七
櫛	三、三六四、三四六	一三・五九
柯	六七、三一七	二八・一〇
樟	一七九、四九八	三・九〇
赤	四、三七九、六〇四	七・九八
雜	一一、二四二、三七八	
計	二一、八四八、八二二	
木		
楊		
計		

明治三十九年五月愈々藤田組は鐵道建設に著手したけれども不幸にして工事半にして同組は都合上事業の抛棄を發表するに至つたので督府は更に之を官營さすべく第二十五帝國議會に豫算案を提出したが戦後の經濟は尙ほ幾多重要企業を控へ遂に否決の運命に立至つた然しこの事業たるや林業として國富開發に資するのみならず植民統治殊に理蕃政策上極めて重要であつて一日もその遷延を許すべからずさし再び次の議會に提出したが漸く兩院の認むるこころとなつて始めて年來の宿望は實現の光明に輝やいたのである。

明治四十三年度の初頭阿里山作業所官制が發布されたそして三年計畫を以て鐵道を完成する

ここになり同時に伐採、製材に就て諸般の調査と施設に著手した作業は著々進捗し四十四年の八月及大正元年六月に豪雨の襲來を受け不慮の大災害を蒙つたにも拘はらず豫定の通り大正元年十二月には鐵道の竣功を見たので直に木材の運搬を開始された、製材工場は當時尙工事中であつたが二年六月には竣功の豫定となつて居つた。

阿里山事業は大正元年から本來の作業を創始したけれども大正二年の夏には未曾有の暴風雨に見舞はれ鐵道は完膚なきまでに痛手を蒙り創業の至難その前途は實に多端であつたのである。二年度は全くその復舊工事に忙殺された爲め二年度迄は寧ろ建設の道程に置かれたのであつた。

かくて稍秩序ある作業に移つたのは大正三年度の半に過ぎない同年度十一月嘉義製材工場は漸く運轉を開始したのである。

大正四年阿里山作業所を廢して營林局官制が定められ茲に専任の局長は任命せられ始めて名實共に獨立の一局として事業の發展に向つた諸般の施設改良は日を逐うて充實し、局務は獨り阿里山の斫伐を行つたに止まらず一方臺中に八仙山事業を羅東に太平山事業を創始し亦斫伐事

業の外に跡地の造林、一般熱帯造林、林産物處分をも司掌し後に林務行政に至る迄其の主管となつたが大正九年の制度改正に於て營林所に改められ指定林野内のみを所管する様になつた従つて殖産局内の一所として來たのであつたが十四年十一月府内の一獨立官廳と看做され再び事業の内容は増大するに至つた斯く營林所は幾多の迂餘曲折を経て來たのであるがその間阿里山事業は年を追うて發展の一途を辿つたのである。

参考の爲めに阿里山創業費の決算額を次に掲げよう。

阿里山事業創業費

年度別	科目別	計	記
明治四十三年度	阿里山 森林經營費	一、三三二、七四一、三〇	藤田組補償額は明治四十三年及四十四年度に各六十萬圓合計百二十萬圓なり
同四十四年度	阿里山 所補充費	—	
同四十五年	災害費	—	
同大正元年	計	一、三三二、七四一、三〇	
同大正二年	計	二、二五八、三九、三〇	
合計		六、〇八七、五二七、九七〇	

#### 四 阿里山事業の將來とその施業計畫

阿里山森林は云ふまでもなく原生林である、如何に豊富なる蓄積を保有してゐることも伐るに従つて遂には皆無きならなければならないにも拘らず吾人は敢て無盡藏と云つて憚らないのである勿論原生林が無盡藏である云ふのではない保續の造林によつて永久に資源涸渴を來さない云ふことである、現在の森林蓄積と斫伐跡地の保續造林木の生長量を測定し、更に國土保安、人類生活に必要な各般の因子を綜合考慮して、一箇年間の伐木の許容量を決定し現在の林の伐採を終るに同時に更新林木が伐期に達する計畫は施業按の眼目である。

今阿里山事業區の施業按を基礎として事業の永久性に及ぼすこと大正十二年度末現在所謂阿里山事業區の蓄積は針葉樹五百三十六萬石此の内利用制限林（或は風致林、保護林等）の材積を控除して五百十二萬石である以上は立木であつてこの外に山地に貯材してゐる丸太が三十萬石、更に濶葉樹は有用樹のみで四百八十七萬石（立木）あるが濶葉樹については暫く措き専ら針葉樹のみについて計算を試みるに、針葉樹五百十二萬石の立木は平均造材歩留を五十一%にして二百九十三萬石の丸太となるこれに山元貯材の丸太三十萬石を加へると二百九十三萬石となる。

正	誤	行	頁
石萬一十六百二	石萬三十九百二	12	12
石萬一十九百二	石萬三十九百二	11	11
石萬一十九百二	石萬三十九百二	2	13
石 萬 七 十	石 萬 九 十 四	3	13

る、そこで營林所が年々この山から伐出してゐる搬出計畫は何程か云ふに針葉樹十三萬七千石濶葉樹一萬石であるから針葉樹の總造材材積二百九十三萬石を年々十三萬七千石づつ生産を續けて行くに今後二十箇年に二百七十四萬石を搬出して尙山元四十九萬石を残すことになる然らば二十箇年の後は如何と云ふに即人工保續林が枝を擴げて待つてゐるのである。

#### 阿里山の造林

は現在扁柏、



廣葉樹栽植後八箇年  
造林所張出之水社  
地

杉の二段喬林  
作業によつて  
るがその割  
合はひのき一  
杉三である今  
實際の生育狀  
態を既成林の  
生長調査の結

果に依るにその生長は内地に於けるものに比して遙に良好で杉の生長を平均して内地の房州清澄山に於ける一等林と等しきものとして計算するときは植付後四十年にして經濟的利用に適す

#### 四 阿里山事業の將來とその施業計畫

阿里山森林は云ふまでもなく原生林である、如何に豊富なる蓄積を保有してゐることも伐るに從つて遂には皆無きならなければならないにも拘らず吾人は敢て無盡藏云つて憚らないのである勿論原生林が無盡藏である云ふのではない保續の造林によつて永久に資源涸渴を來さない云ふことである、現在の森林蓄積と斫伐跡地の保續造林木の生長量を測定し、更に國土保安、人類生活に必要な各般の因子を綜合考慮して、一箇年間の伐木の許容量を決定し現在の林の伐採を終るに同時に更新林木が伐期に達する計畫は施業按の眼目である。

今阿里山事業區の施業按を基礎として事業の永久性に及ぼすこと大正十二年度末現在所謂阿里山事業區の蓄積は針葉樹五百三十六萬石此の内利用制限林（或は風致林、保護林等）の材積を控除して五百十二萬石である以上は立木であつてこの外に山地に貯材してゐる丸太が三十萬石、更に濶葉樹は有用樹のみで四百八十七萬石（立木）あるが濶葉樹については暫く措き専ら針葉樹のみについて計算を試みるに、針葉樹五百十二萬石の立木は平均造材歩留を五十一%として二百九十三萬石の丸太となるこれに山元貯材の丸太三十萬石を加へると二百九十三萬石となる。

る、そこで營林所が年々この山から伐出してゐる搬出計畫は何程か云ふに針葉樹十三萬七千石濶葉樹一萬石であるから針葉樹の總造材材積二百九十三萬石を年々十三萬七千石づつ生産を續けて行くに今後二十箇年に二百七十四萬石を搬出して尙山元四十九萬石を残すことになる然らば二十箇年の後は如何云ふに即人工保續林が枝を擴げて待つてゐるのである。

#### 阿里山の造林

は現在扁柏、



廣葉植義 杉栽出 造後張 林八所 地年社 杉の二段喬林 作業によつて なるがその割合はひのき一杉三である今實際の生育状態を既成林の生長調査の結果

果に依るにその生長は内地に於けるものに比して遙に良好で杉の生長を平均して内地の房州清澄山に於ける一等林と等しきものとして計算するときは植付後四十年にして經濟的利用に適す

るが現在阿里山に於ける造林木が四十年に達するのは昭和三十五年であるから原生林の利用終了昭和三十五年の間に尙十六年間は阿里山に於て利用すべき針葉樹がないことになる、この間の保續に最も安全に資するのは鐵道沿線に於ける造林であるこの造林について述ぶる前に阿里山の杉の生長について一言しておきたいのは阿里山造林地と地續きに隣接する大學演習林の杉の生長について先般東京帝大教授右田林學博士の實地視察の談によるこの生長は優に内地に於けるもの、二倍以上であるこ而もかく旺盛な生長を遂けてゐるに拘はらずその材の工藝的性質は破斷抗力に於ても他のすべての點に於ても些の遜色を見出すことが出来なかつたこ大にその有望なるを歎賞してゐられたこである従て内地一等林と等しきものとした假定は決して不當でないこを裏書するものであらう。

大正十二年度末の沿道造林面積は四百四十五町歩に及んでゐたがその後年々百餘町歩を實行してゐる、樹種は杉と廣葉杉であるがその生長は亦地味肥沃、氣候溫暖にして天恵、地利俱に驚くべきものがある、今その收穫調査の結果を掲げて見れば每一町歩當りは、

二十五年生の  
主伐造材材積

二十年生の間  
伐造材材積

廣葉杉 一、八四七・二<sup>石</sup>  
す 一、四一一・二<sup>ぎ</sup>

一三四・〇 一部十五年生の間伐を含む

平均 一、八八九・九

八四・五

であつて沿道造林にては内地杉二、廣葉杉一の割合で輪伐期を二十五年として優良材を供給することが出来るこれは附近民行林によつて調査した結果で確實である即毎町當りの收穫量は、主伐、間伐を合せて千九百七十四石で然し原生林より伐出したものに比ぶれば尙ほ收入價格遙に低いのであるから此の場合は年十三萬七千石では從來通りの收入は得られないそこで創業費に對する償却をなし、尙ほ企業利益一割五歩を擧るためには何程の年伐量とすべきかを計算したこころによるこ丸太二十一萬一千石を搬出せなければならぬその爲めには成林地を年百〇七町歩宛伐採せねばならぬ阿里山保續の爲に要する十六年間には一、七一二町歩なるから大正十二年度以後に於て十一年間に千二百六十六町歩の造林を必要とするものである此れは著々實行せられつゝある。

阿里山沿道造林豫定地は全部で約五千六百町歩である但し標高其の他の關係上杉、廣葉杉の造林を爲すここの出来ない地域を幾分包有するこは勿論である。

尙茲に特記すべきことは阿里山に於て豫備林として施業區域の外に残された大學演習林東埔山區及國有林鹿林山區であるこの兩區は面積三、四九〇町步蓄積針葉樹一、八〇四、〇〇〇石濶葉樹一、四二二、〇〇〇石合計三、二五二、〇〇〇石を有すること及濶葉樹として計算外に置きたる約五百萬石である大學演習林は阿里山事業區と峰合せにあつて阿里山鐵道を措いては利用出來ぬものが多いので同大學との間に諒解が出來てゐる當所の手によつて伐出することになつてゐる此等針葉樹を搬出するときは原生針葉樹林の伐採年數は前述二十年の外に更に約八箇年の作業に資するに足るのである此の外尙未調査に屬するものがあるも計數的に掲げ難い、又集材機械の利用が近年阿里山に於て異常の進歩を遂げ機械の活用能力は往年に比して著しく増加したる例は往年その集材範圍は鐵道沿線千五百尺内外とされそれ以外は利用不可能としたものであるが中繼、息木等の方法によつて倍以上に活用することが出來るに至つた即ち過去に於て若くは現在に於て不採算として放任された林分も經濟的に利用出來ることになるのは豫想に難くない今や世界に於ける木材の需給は近き將來に於て饑饉状態となるべしとは一二學者の論にあらずして世界に於ける識者の聲となつた、今日採算上面白からぬ濶葉樹殊に阿里山に於けるもの、如き優良材が永久に價値なしとするところはさうして言へよう況んや阿里山と連互する針葉樹林に於ておやである、以上によつて阿里山の林業的生命を有限的のものでなく全く滾々として湧く泉の如くであることを概略説明し得たこと、信する、世間にもし阿里山事業が行詰つたごか餘命幾何もなきが如き批評を試むるものは恐らく現在の原生林のみに就ての偏見と思はれるそれごても餘りに神經過敏であることを首肯せらるゝこと、思ふのである。

林業は阿里山の生命であるが阿里山は尙人類生活上の安息所として使命づけられてしまつた、それは氣候の順和であること、風致の秀麗であること、交通の至便であること等によつて自然の一大公園であり、大療養所であり、修道院であり、避暑地であることが世間の憧憬となつたからである、ここに來年度から風致造林を開始するから益々之等の特色を強める處であらう。

## 五 阿里山鐵道

阿里山鐵道は縦貫本線の嘉義驛を起點として重疊たる山脈を縫うて阿里山沼の平に至るものである、その延長、幹線が四十四哩一分支線は約十四哩ある幹線に於ける高低差は七千五百餘



尺に及ぶのである、従つて刻々に移り行く窓外の展望は實に痛快である、我々は炎熱灼くが如き嘉義街を立つて車窓の人となりなるのであるが先づ目に觸る、植物の種類に注意して見なければならぬ檳榔の林、龍眼の森、榕樹下の辻堂、土民の家屋を圍る荊竹林すべてが臺灣情景であると同時に皆熱帯特有の植物である、然しそれ等は樟腦寮附近を過ぎては見ることは出来ないそれは既に熱帯林を脱して暖帯林に入つたからである暖帯林の代表となるものは樟の類であるが沿道は大概ね草原の中に山黄麻、班芝の樹を見るが年々野火に遭うて林相を成さぬ荒廢地に化したところが多い、しかも生育旺盛なこれら二三種の樹木は自然、人爲の迫害にも屈せず生存を計つてゐるのである、やがて交力坪、水社寮も過ぎ奮起湖附近に至つて恰も内地平地附近の林木に相似した林相を見ることが出來よう多種の常緑樹が而も極めて豊富に含まれてゐるが上るに従つて所謂櫛類の出現が著しいここに氣付くのである我々は既に温帯の下部に近づいてゐるのである、平遮那を過ぎれば正しく温帯であるやがて潤葉樹の中にはポツ／＼べにひの巨幹を散見することが出来る、べにひは阿里山の蓄積中最も多い樹種であるが大凡針葉樹中二葉樹を除いて最も標高の低いところに生育が旺盛であることはこの鐵道に便乗して針葉樹中先づ

最初に紅檜の林を見次に紅檜と扁柏の混生に移り更に扁柏の純林となることによつて首肯されるのである、阿里山一帯は大凡この紅檜と扁柏の混生林であるが尙亞杉、姫小松、榎もなかく少くない、ミヅまつは本森林の最上部になつてゐる、半日の車窓に熱帯、暖帯、温帯の三帯を通り更に寒帯林を望むことが出来るのである、されば朝に氷を呼び三伏の酷暑に汗を拭いて午下には雲上の人となり襜褕を纏うて肉鍋を圍むの痛快さは獨りこの鐵道に於てのみ味ひ得る涼味であらう。

嘉義、竹崎間八哩九分は平坦線であつて最小曲線の半径は十五鎖軌條三十封度、この區間は沿線一般の交通に便する爲に旅客貨物の運輸營業を行つてゐる竹崎以東は山線と稱し軌條も一部三十封度であるが大概四十封度で二萬平に至る間は延長三十一哩九分最急勾配二十分の一最小曲線半径二鎖それより沼の平に至る三哩三分は三箇所のスイツチバックを有し最急勾配十六分の一最小曲線半径百尺である、沼の平以東は塔山線と稱して八哩餘に及んでゐる、嘉義、眠月間は一般貨物の運輸營業の外一般旅客の便乗列車を運轉してゐる、軌間は二呎六吋である。本鐵道中最も奇觀すべきものは獨立山のスパイラル線であらう軌條は獨立山に於て三旋轉

し三度樟腦寮の停車場を車窓より俯瞰し一氣に約七百尺を登攀するのである。

嘉義、沼の平間には六十六の隧道と多くの橋梁とがあつて隧道の最長なるもの實に二千五百呎に及ぶ。

類例稀なる急勾配と小半径曲線を包有する本鐵道のために使用する汽罐車は特殊の構造を有する米國ライマーカンパニー製シエー式二十八噸及同十八噸車であるが多年試用の結果著しく改良を加へたので殆んど阿里山獨創とも云つてよいのである又木材運搬車も同社製に改良を加へたるものと當所の設計によつて神戸川崎造船所、大阪汽車會社、名古屋車輛會社の製作にかゝるものすべてボギー車であるその他客車貨車は當所嘉義修理工場に於て種々研究製作になるものも多い、而してすべて制動の安全確實を期し貫通式米國ウエスチングハウス製エヤーブレーキを取付けて以來運轉操縦共に技術は全く圓熟し來り全く事故の發生を防遏し得たりと云ふも過言ではない。

現在一日の運轉は三乃至四列車一箇年約十五萬石の斫伐丸太と二萬石内外の託送材を運搬してゐる、本鐵道の輸送能力は尙大なるものがあり年額三十萬石を搬出した記録もあるのである運轉速度は毎時上り四哩半下り七哩を普通とするので嘉義、阿里山間は上り九時間を要する筈であるが近時登山者の激増せるに鑑み昭和二年四月一日よりは其の便益を圖る爲めに急行列車の運轉を開始したので六時間餘りで阿里山に達するこゝが出来ることになつた又客車も最近新製したもので乗り心地のよい二等車も連結してゐる、近年登山人員一箇年五千人を下らず年々貨客共に遞増を示し十五年度の鐵道収入は十七萬二千餘圓に達した尙年を逐うて増加の傾向を示してゐる。

本鐵道は明治四十三年四月藤田組に於て計畫起工の中途官營に更め大正元年十二月に至つて遂に全線の開通を見た爾來大正二年同九年の大風水害を初め大小の被害と幾多の事故を経て今日の如き安全なる交通機關となる迄には従業者中多くの犠牲を拂つたこゝは云ふ迄もない吾人は轉た今昔の感に堪へざるこゝ共に斯く叙し來つて貴き犠牲となりし諸英靈に敬意を表する次第である。

## 六 阿里山鐵道沿線

嘉義驛(臺南州嘉義郡嘉義街)

阿里山鐵道の起點で縦貫鐵道の嘉義驛と兼用してゐる阿里山登山列車は此處より出發する。

北門驛ホクモン（嘉義郡嘉義

街北門外）

嘉義驛起點零哩八分の處にあり營林所嘉義出張所、貯木場、修理工場、製材工場、機關庫等の所在地で製材工場は阿里山より搬出した巨材を此處にて製材される、規模頗る廣大であつて最新式の製材機



嘉義製材所

械を裝置し一箇年の製材能力二十五萬東洋一の稱がある。

當驛から阿里山へは毎日一回便乗列車を運轉し嘉義驛午前七時北門驛を午前七時十五分に發し阿里山には午後一時四十分に著する。

（義人吳鳳廟ゴホウ）停車場より南二里の地點嘉義郡中埔庄社口にあり白馬に跨りて劍を提けたる義人吳鳳の像を安置してゐる灣橋驛ワンキョウより

北二十町にして牛稠溪ゴウチヨウケイを渡れば公館庄コウカンシヨウと云ふ部落がある吳鳳の居住した處である。

（義人の略傳）吳鳳は幼時から讀書を好み大義を知り蕃語に通じて居たが康熙の初め阿里山蕃語通事に擧げられ蕃社交易の事を掌つた當時の蕃語通事は私曲を逞ふし濫りに蕃人の意を迎へんとして常に無頼の惰民を欺瞞して山地に赴かしめ蕃人馘首の犠牲に供するの風があつた吳鳳は常に之れを憂ひて其の弊を革めたいと思つてゐた或日筆を執り刀を持ち馬を躍らして蕃人の首を提けたる自分の像を紙に寫して其の妻に對つて「兇蕃の性教訓至難なり我れ之を制せむと欲するも他に術なし然りも雖も人を死地に送るに忍びず彼等を教ふるに途なし唯至誠以て己を棄てんのみ我死せば速に之を焼くべし死すとも尙靈あり必ず此の患を除くべし」と云つたので家人は泣いて諫めたが聞入れなかつたその翌日に蕃人が來て人の首を頻りに求めたので吳鳳は「人を殺すは國法の許さざる處汝等既に官の撫育を受く宜しく國法に従ふべし濫りに人を殺す勿れ、然りも雖も我今汝等の望みにより仍ち神に祈りて一首級を汝等に授くべし明旦此處に朱衣紅冠を戴いて白馬に跨る一官人を見るべし此れを斬るを以て最後の馘首と心得べし後來敢て再する勿れ」と誨へ諭して去らしめた、さて其の翌日約束の通り蕃人が來て見るも果し

て吳鳳の言つた通りの人がやつて來たので大に喜び首を切り山中で此れを見るこそそれは想ひ掛けない吳鳳の首であつた、さすがの蕃人も非常に驚き且悔いて歎き悲んだ、夫れから後各社の蕃人が馘首したいと思ふ毎に吳鳳の白馬に跨つて大刀を翳して往來する有様が目の前に現はれ夫れを見た者は輒ち病死する不思議な出來事が續いた蕃人等は愈々畏れて茲に彼等が天に向つて誓約すべく石を埋め將來嘉義縣内では馘首せないことになつて、爾後かやうな病氣もすつかり無くなつた、そこで漢人は其の惠澤に感じて祠を建て之を祀つた義人吳鳳廟と云ふのは即ちそれである。

灣橋驛(嘉義郡灣橋庄)

嘉義起點四哩六分の地にある小部落で米及甘蔗を主産物とする。

鹿麻産驛(嘉義郡竹崎庄)

嘉義起點六哩七分の處にあり戸數五四〇、人口二、五七〇の小街で公學校警察官吏駐在所等がある此處から内埔に至る輕便鐵道の便ありて一般旅客貨物の取扱をやつてゐる産物は木炭粗紙果物等で停車場の南約八町牛稠溪の支流にある深潭には魚族の繁殖多く釣魚に適する又附近に

は鳩類が集るので遊獵にも適する。

竹崎驛(嘉義郡竹崎庄)

嘉義驛から當驛迄八哩九分は營業線で毎日四回旅客列車を運轉し一般旅客貨物の取扱をして居る此處は戸數三九六、人口一、七八九あり嘉義郡警察課竹崎分室、郵便局、庄役場、旅館、運送店、料理店其他商店等があつて稍々街衢をなして居る當驛以東を山線と云ひ非常な急勾配で約二十分の一最小曲線半徑二鎖殊に阿里山に近き部分所謂林内線と稱する二萬平、沼の平間は最急勾配十六分の二最小曲線半徑百尺の處もある。

木履寮驛

竹崎驛の次の驛であつて嘉義より一一哩六分海拔一、六〇〇尺あり。

樟腦寮驛

嘉義起點一四哩餘海拔一、六七〇尺阿里山鐵道中第一の難關である獨立山の麓に位しス井ツチバツクに依り停車場に入る、此處を出るコスパイラル線で有名な獨立山に登り始める機關車では腕も折れよと許り石炭が引つ切りなしに灼熱の爐の中に投げ込まれる機關はウナリを立て

て廻轉する旋廻又旋廻獨立山は上へくゞ巻き縮められて行き展望は次第に廣くなり眼下には三度樟腦寮驛が見ゆる阿里山鐵道第一の名所獨立山のスパイラル線は斯くして乗り切られたのである。

鐵道沿線官行造林は竹崎驛附近より始まり當驛附近迄連續しシツソ相思樹及小面積のチークでシツソの最も古きものは大正十三年三月頃相思樹は大正十一年三月頃チークは



「ルライパス」山立獨

大正十二年三月頃の造林であつて全造林面積三四町歩である。

獨立山驛

嘉義より十七哩海拔二千四百三十尺の處にあり稜線に添うて東進するに共に間もなく梨園寮驛に著する。

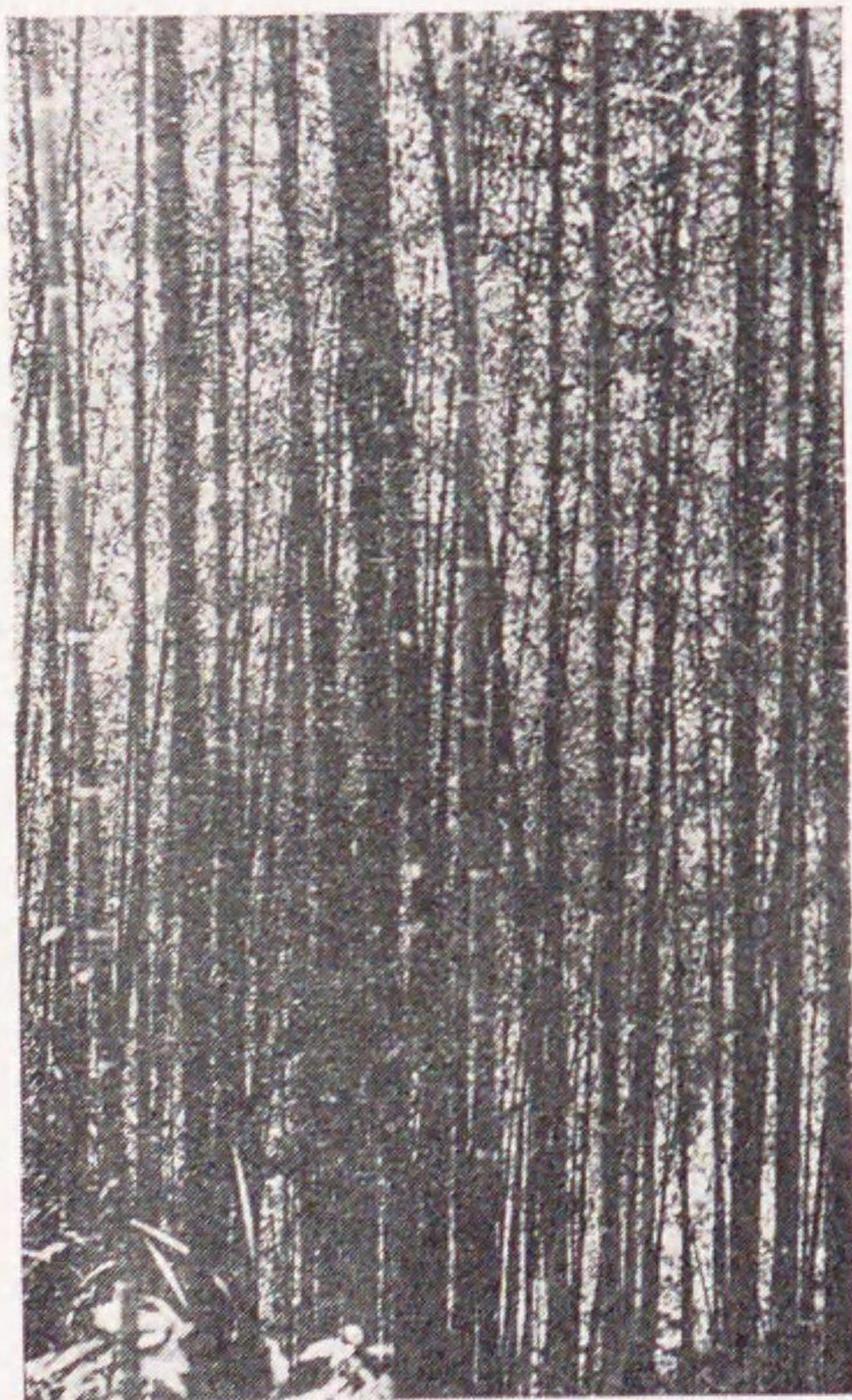
梨園寮驛

嘉義を去る十九哩二分海拔二千九百五十八尺桂竹を産する金獅寮の峻坂から交カ力坪に至る附近の山中は一

帶の竹林であつて一望數里直條叢生の狀況は實に壯觀を極めて居る、臺灣に於ける竹の種類は多様であるが其の用途の最も廣いのは桂竹である建築及器具材料等として搬出されてゐる。

交力坪驛

嘉義より二十一哩餘海拔三千三百尺の處にあり此地は竹林に植林して有名な處で住民は農耕の餘暇殆んど竹紙製造に従事し傍ら植林を爲す風は竹材竹紙、棺材、干筍、山茶花油等である。



桂竹交力坪(然天)林

あり約二百年前より支那民族移住と共に植林を開始し福州杉(廣葉杉)を植付け其の種子は全島各地に頒たれる、産物として

當驛の東北東約一里半の處に幼葉林(小梅庄)と稱する小字がある米の産地であつて品質優良

なので名高い。

水社寮驛 スイシャレウ

嘉義より二十五哩海拔三千八百八十六尺眺望佳良、蓮草、薯榔、干筍等を産する、鐵道沿線官行造林地は樟腦寮、交力坪間はなく交力坪水社寮間は廣葉杉を造林してゐる其の最も古きものは大正十一年三月頃の植栽であつて面積二七五町歩である、又當驛前に廣葉杉の苗圃がある。(四天王山)驛の後方約十四町の高處(海拔約四、八〇〇尺)であつて濶葉樹林で蔽はれて居る眺望頗る良く嘉義水道の水源地である。

奮起湖驛 フンキョ

嘉義を距る二十八哩海拔四千五百六十四尺阿里山鐵道の中間驛で機關庫、保線詰所、苗圃宿泊所、警察官吏駐在所、旅館、茶店、構内呼賣等がある。

當驛に近く杉、廣葉杉の苗圃を設置してゐる。

(石棹)驛の西方約一里の處に方約六尺の足形のある自然石がある鬼の足跡と呼ばれて居る是より約十五、六町を距て、ララウヤミ稱する蕃社がある。

哆囉嗎驛 トロエン

嘉義起點を距る三十一哩海拔四千九百七十餘尺前に清水溪を挟みて奇岩怪石重疊たる大塔山の屹立せるあり偉觀天下を壓するの概がある小塔山、鹿屈山其の他の翠巒連互起伏し眼を轉すれば阿里山一帯は一眸の中に收まり雄大にして壯觀、避暑地として推奨するに躊躇せぬものである構内四邊は苗圃を以て圍まれまことして蕃人の作業に依るもので十餘戸の蕃屋はすぐ驛の近くにある此の地は往時土匪の籠つた處で良民が誤て討たれた者を祀れる十八公祠がある愛玉子、木斛等を産する。

驛前に廣葉杉の苗圃がある。

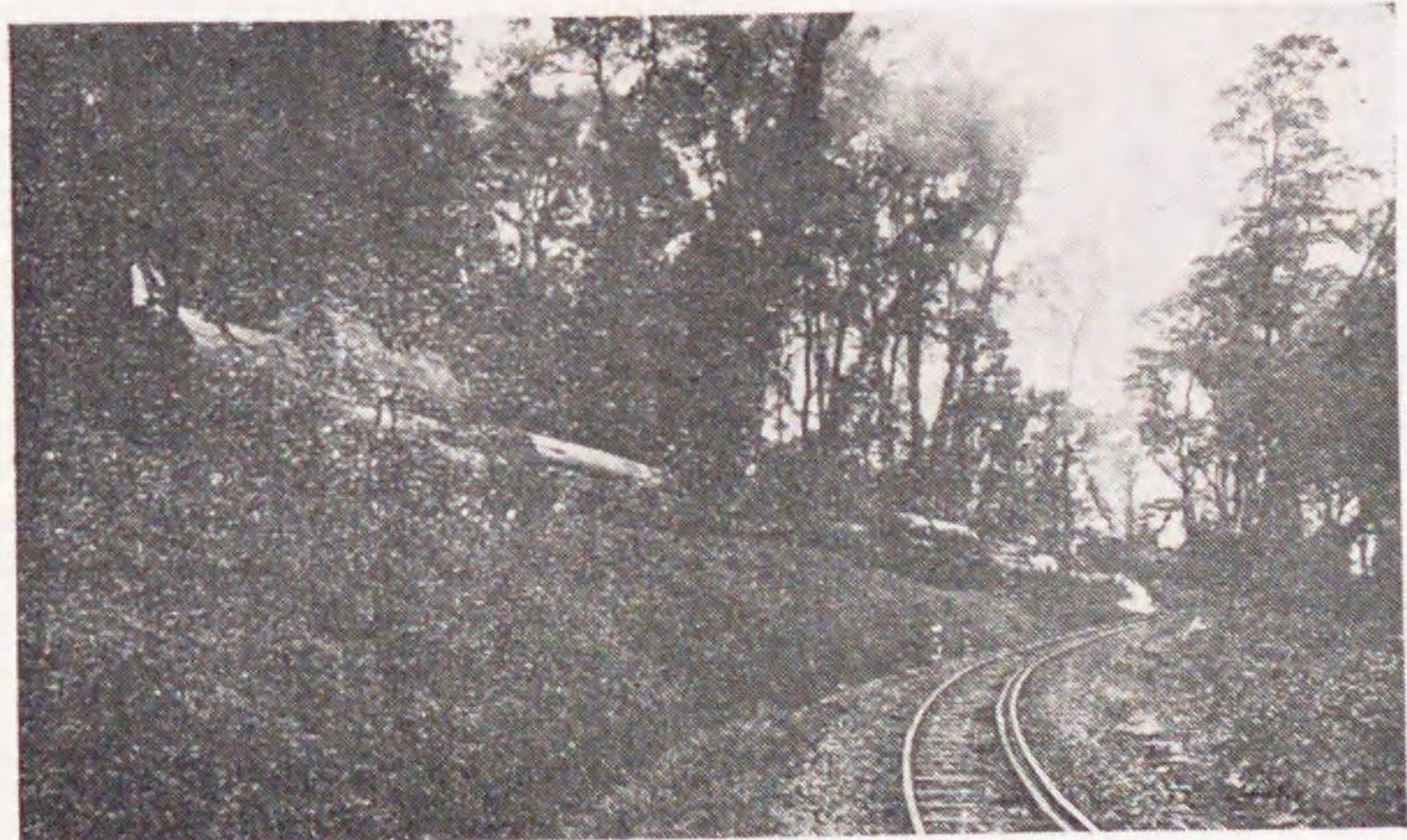
十字路驛 ジフジロ

嘉義起點を距る三十四哩海拔五千二十餘尺愈々汽車は蕃地に入つたのである阿里山鐵道線路と達邦蕃社及ララチ社との交通路の相交叉せる處であるから此の名が起つたのである警察官吏駐在所、蕃産物交換所等がある。

鐵道沿線官行造林地は水社寮奮起湖間はなく奮起湖十字路間は杉、廣葉杉を造林し共に其の

最も古きものは大正九年三月頃の植栽であつて造林面積四〇四町歩である。而して所謂沿線造林は十字路驛以下を云ふのである。

(達邦社)驛より南方約一里半阿里山蕃社中第一の優勢蕃で戸數六十九、人口八百十二あり(中内地人戸數五、人口九、本島人戸數七、人口一五、大正十五年五月現在)農耕及狩獵に従事してゐる社内に警官駐在所、蕃童教育所、獻穀畑等あり質朴從順能く官命に服し阿里山造



[クツバチツキス]

林事業等に出役するものが多い。

(頂笨子社)達邦社より南方約二里半戸數二十六、人口三百七十三(内地人戸數三、人口四、本島人戸數六、人口十)で頂笨子警察官吏駐在所、蕃童教育所等がある此處より砂米其蕃社を経觸口庄に出で中埔を過ぎて嘉義に至る道がある觸口より輕便鐵道を利用する事が出来る(ララチ社)驛より一里二十四町の

北方にあつて戸數四十九、人口二百四十四(中内地人戸數一、人口三、本島人戸數二十)で警察官吏駐在所、蕃童教育所等があり蕃人は主として農耕を勵み良田が多い。

平遮那驛

嘉義より三十七哩餘海拔五千五百餘尺此處を過ぎて二萬平近くになるミ紅檜の巨木が點點車窓に現はれ眞に大森林に入つた心地がする汽車は

二萬平驛

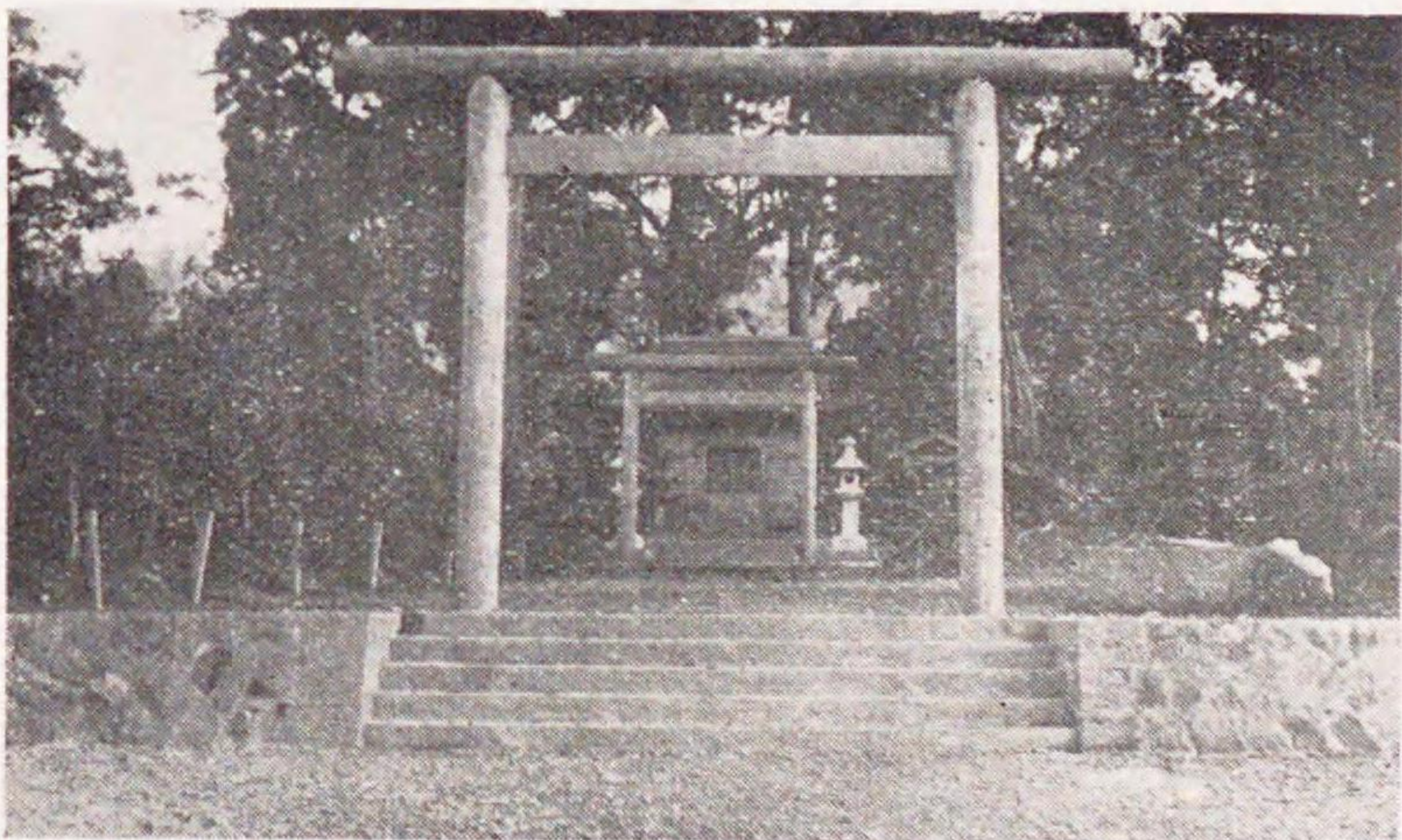
嘉義を距る四十一哩餘海拔六千五百餘尺約二萬坪の平坦地を爲すを以て此の名がある機關分



神 木

第一第二の「ス井ツチバツク」によりて森林を縫うて進む如何にも森嚴な氣にうたれて來る列車は間もなく二萬平驛に著する

庫がある戸數百五戸、人口三百十五、驛の前方は俗に大崩れと稱し明治四十二年及大正二年の豪雨に際し崩落せるものである驛前に下り立ちて下方を俯瞰すれば朝暮雲海の眺めが殊に良く此處より愈々最急勾配なる十六分の一にかゝるので列車の牽引定数は今迄の換算八輛から換算六輛に減ぜられる、夫れより間もなく車窓に近く有名な阿里山の神木に著く。

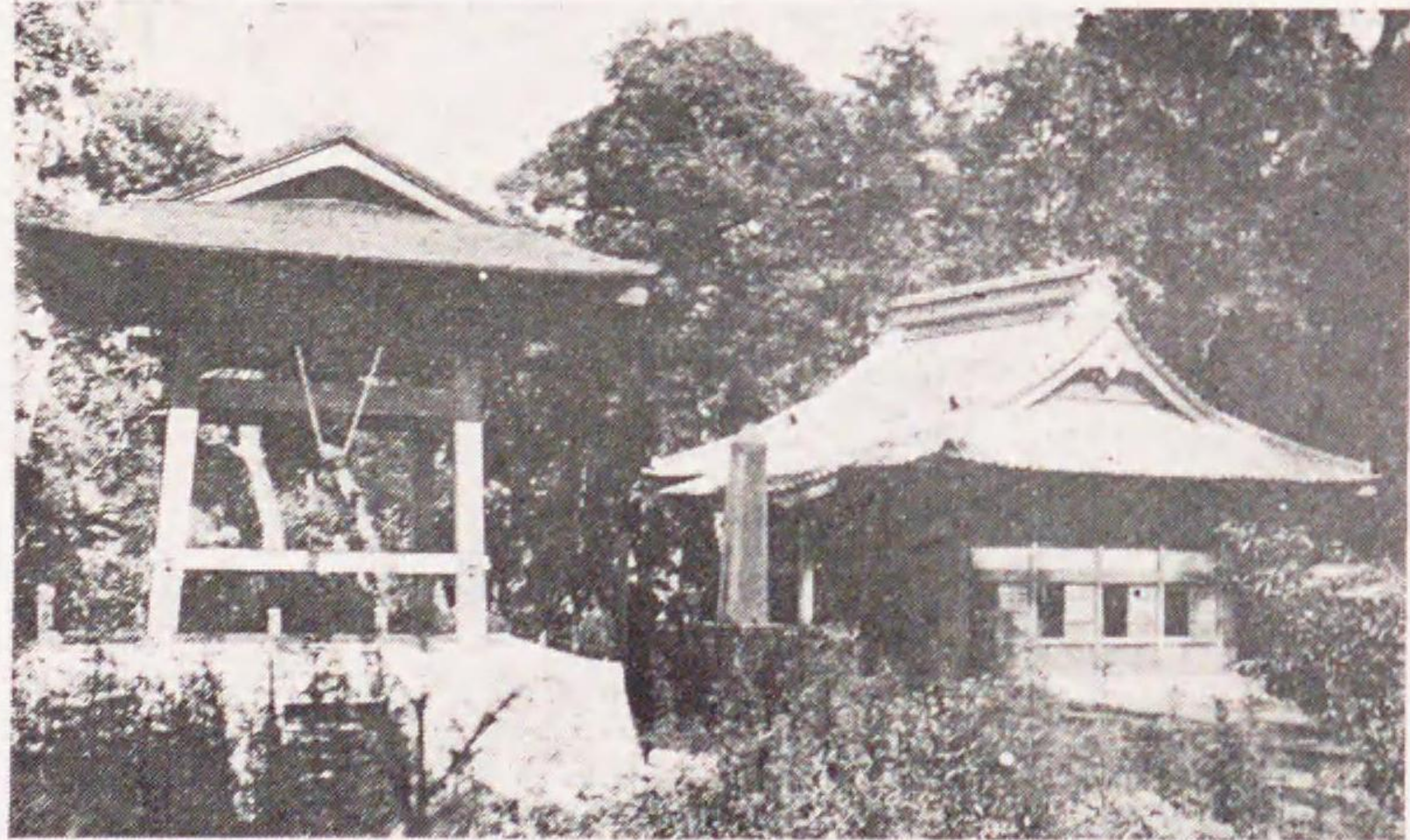


阿里山神社

神木驛  
嘉義より四十二哩四分海抜七千五十尺阿里山神社境内第三スツチバツクの上方にあり樹名 *Chamaecyparis somnoscensis* Mats. (學名) べにひ(和名)目通周圍六十四尺枝下長さ四十五尺材積千八百石樹齡三千年と稱せられて居る七五三繩を張り玉垣を圍らし其の勇姿を仰いで遠く神代に想を駛すべく更に其の下方を注視すれば

略同大の第二神木が在るその空胴は實に五六十人を隠すことが容易である。

阿里山造林は神木驛に至る少し前の第一ス井ツチ附近から始まつて年々伐採跡地を造林してゐる、又第一ス井ツチ附近に阿里山造林用のスギ、ヒノキの苗圃がある、樹種は杉、扁柏で杉の最も古いものは大正三年三月頃扁柏の最も古いのは大正四年三月頃の植栽であるとして既成造林面積



阿里山寺

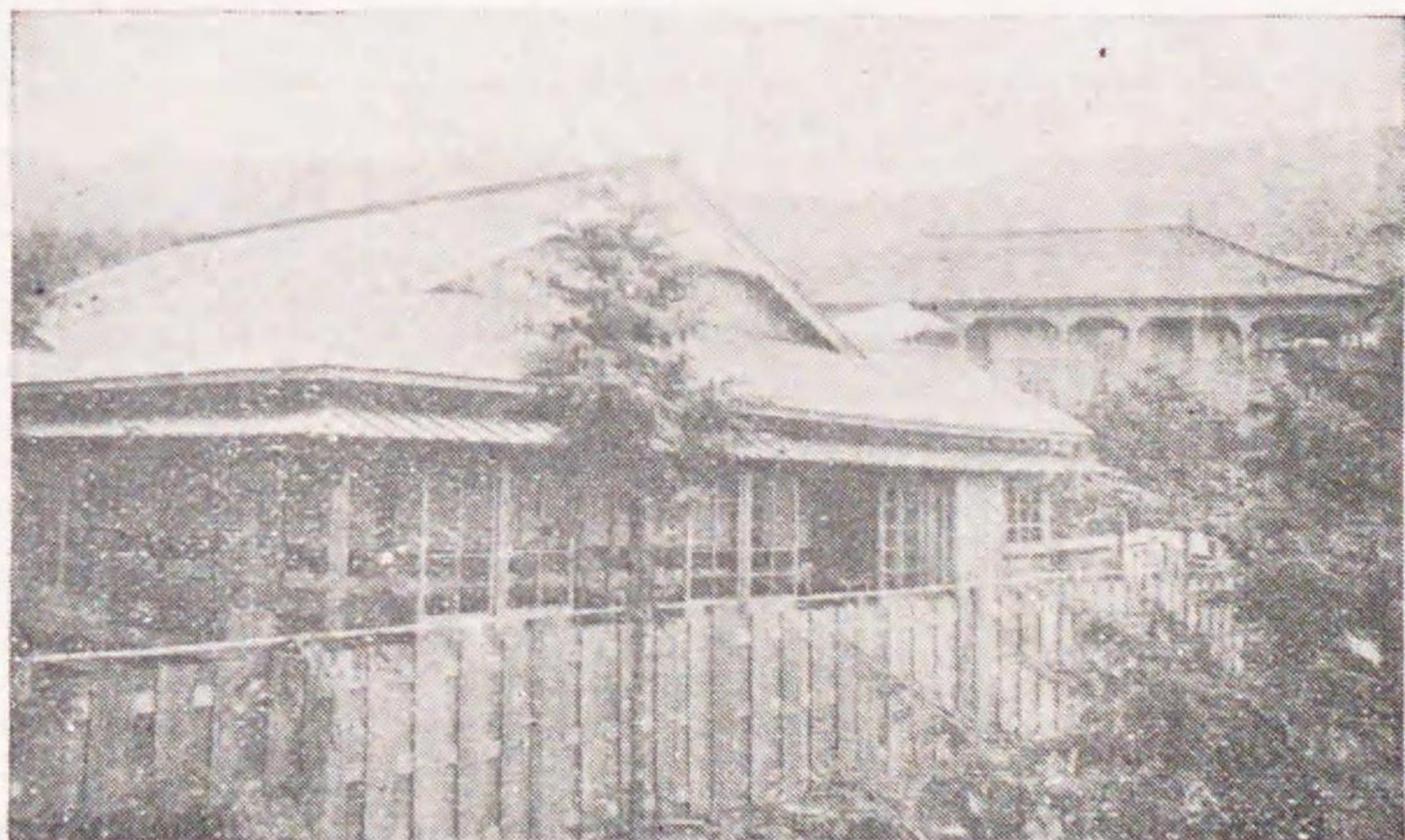
は八五八町歩に及んでゐる。

沼之平驛  
ヌマノヒラ

常驛は嘉義起點を距る四十四哩餘海拔七千四百五十七尺の地點に位し嘉義、沼之平間森林鐵道幹線の終點である是れより以奥線を塔山線と稱し常驛を起點とする、構内に機關庫、修理工場、製材工場、營嘉購買組合阿里山配給所、郵便局、運送店、俱樂部、旅館其の



他多數の商店等がある、驛の下方一帯の地は飯包服フンバオ云ひ驛方面に併稱して阿里山兒玉村に稱し營林所阿里山派出所の所在地で小學校、阿里山神社、阿里山寺、警察官吏駐在所、醫務室等もある阿里山夏季林間學校は計畫愈々實現し昭和三年より開校せらるべく新高登山口は當驛構内を起點とする試に一日の視察を了へて黄昏時旅舎のベランダに椅座すれば大塔山の靈姿は巍然



阿 里 山 俱 樂 部

さして中空に横たはり四圍に罩むる夕霧を破つて久遠の彼方へ嫋々の餘韻を曳いて去るものは實に阿里山寺の晚鐘である。

若し夫れ天空清澄の星月夜澎湖島上に點滅する燈臺を俯瞰するに至つては全く靈界の人化し去つた様な氣のしない人があらうか。

阿里山に登るには北部方面の旅客は臺北を午後九時二十八分に發車し嘉義驛に

翌午前五時十二分著急行列車に、南部方面の旅客は高雄を午前四時十五分發午前六時五十分嘉義著の急行に乗車すれば嘉義驛を午前七時發の阿里山行便乗列車に接續し午後一時四十分阿里山沼之平に著く、であるから嘉義驛で阿里山行の乗車券を買つて乗替へればよいのである。

汽車賃は嘉義驛

から沼之平迄二等

で五圓六十六錢、

三等二圓八十八錢

である、(但し毎月

第一及第三日曜日

に限つて當分の内

作業の都合上便乗

便乗列車の終點となつてゐる、此處で下車し約一哩の地點に於て集材作業を行つて居るから此

處にて大體の視察は遂げ得られる、何人も先づ巨幹長大の美材がかゝる森林を形成するに至つ



伐

木

列車の運轉を休止してゐる)

阿里山の事業

地を視察するに

は沼之平驛から

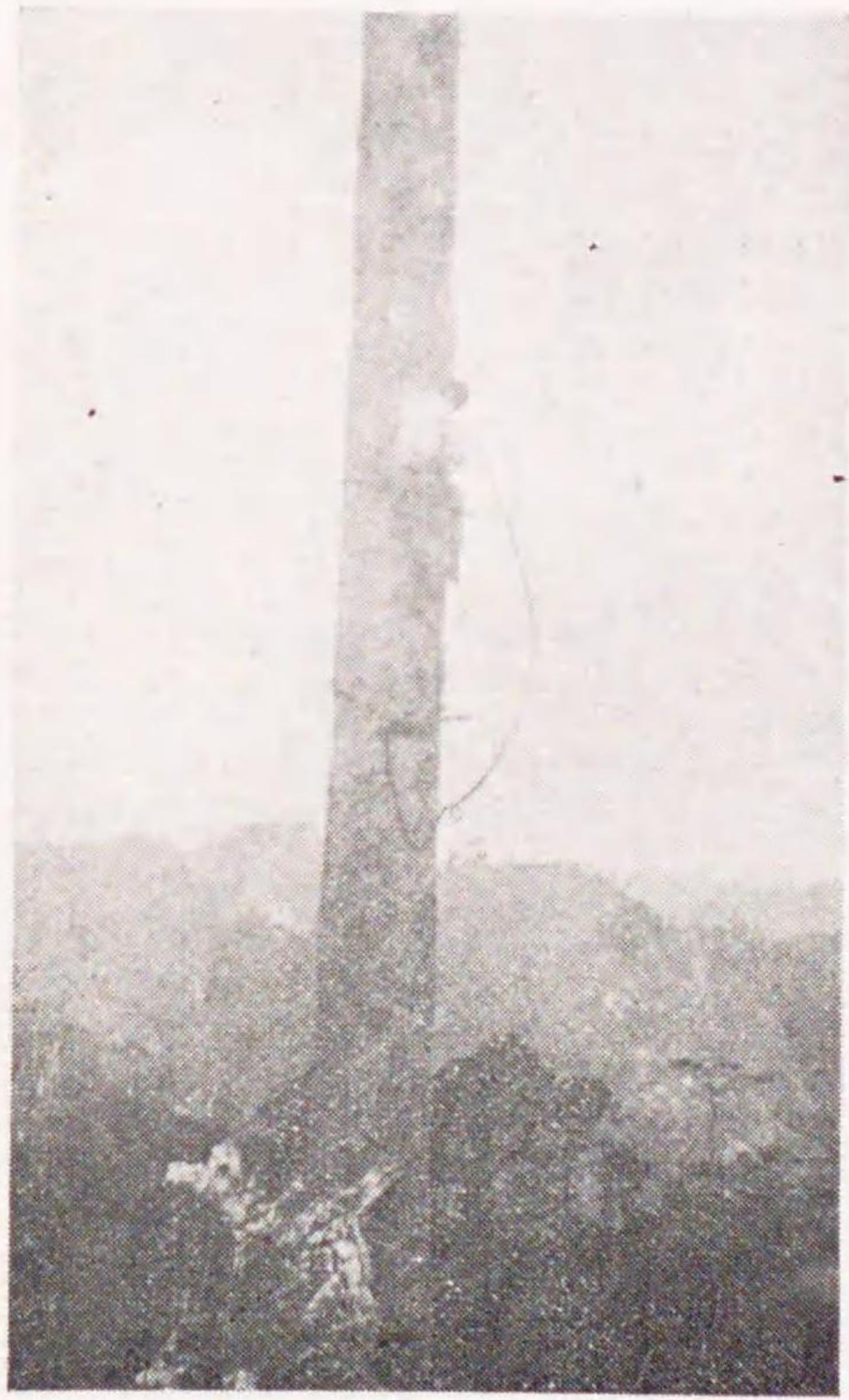
四哩二分にして

眠月云ふ小驛

がある此の驛は

た自然の力に俱に人爲の誇りを念頭に描くであらう。

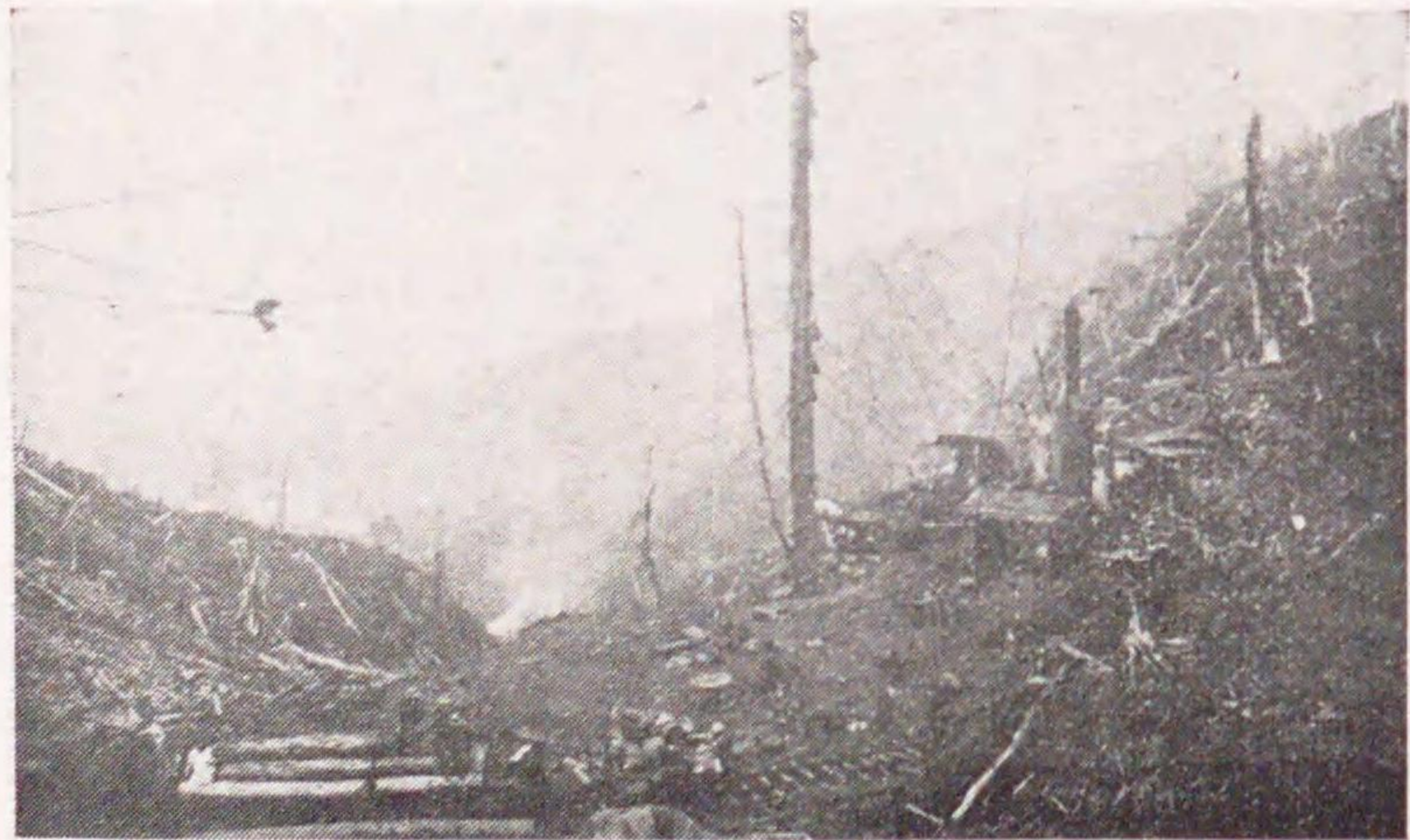
尙沼之平驛より二哩七分海拔七千六百九十一尺にして阿里山鐵道の最高地たる塔山驛タラツンがある  
此處から左して大瀧溪線と稱する支線がある此の線は特にガソリン機關車を運轉して居る進む  
ここ約一哩にして  
小驛がある、此の  
附近に於ては盛に  
伐木集材等の作業  
を行つてゐる、従  
つて林相等の視察  
をも出来るから  
行程を急がれる人  
樹及石楠木等密生し四阿の設けさへあり、花時は一大お花畑の美觀を呈する又四顧の眺望頗る  
雄大であつて、東望すれば阿里山沼之平一帯を一眸の裡に收め、仰けば新高の靈峰直前に座す



人の視察として  
は此處で充分で  
あらう、更に此  
驛より徒歩にて  
僅か十分内外で  
夫 塔山の絶頂に達  
する。俗に躑躅  
ヶ丘と稱し躑躅

るの大觀は眞に山嶽美の極致  
であらねばならぬ、右二箇所  
は視察日程嘉義より往復二日  
間にして出来るも尙一日の  
旅程を許すこせば是非大塔  
山、開農臺カイノウグダイ若くは對高岳、祝  
山等の登山を推奨する、これ  
等は何れも展望最も開豁にし  
て觀光者の眼を樂ましむるに  
充分である。

宿泊所の設備は阿里山俱樂部、  
阿里山ホテル等がありて  
俱樂部は六十人位阿里山ホテ



材集 - ダツキス

ルは三十人位を收容するこ  
こが出来る食費は一等三圓  
五十錢、二等二圓、三等二圓  
團體旅客又は學生なきは又  
別に簡單な方法もある。  
觀光のときとしては年中  
可ならざるはなきも殊に毎  
年十月乃至四月の間は常に  
天候快晴にして眺望に便で  
ある其れ以外は雨期と稱す  
るも概ね午前中は晴天で午  
後から驟雨的に一時降雨を  
見るここが多いが夕刻前よ

り再び好天氣なるのが普通であるから観光上些したる支障はないのみならず白雨一過して飛雲去來し山態現滅し變幻極まりなき様態殊に高山氣分を濃かにし又同山特有とも稱すべき雲海の奇觀は雨期に於て特に鮮麗なるものがある。

登山者の服装としては素より輕装がよいが唯十字路以東に及べば寒氣も漸次加はるから夏分も雖もメリヤス襦衣位を携帶するの要がある從て冬期は相當防寒の用意は必要である尙地下足袋、卷ゲートル位を携帶するを便利とする。

### 七 科學より觀たる阿里山

山上の氣象……沼の平に於ける氣溫は次の通りである。

累年平均氣溫(午前十時、午後一時兩度測定の平均)華氏を以て示す。

最高最低平均	月 別												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
平 均	四四・八	四五・九	四九・三	五四・〇	五六・八	五九・〇	五九・九	六〇・二	五九・二	五五・六	五三・二	四七・五	五三・八

冬季は九州南部鹿兒島地方に髣髴し夏季は北海道の北部又樺太に類似す、山上の夏八月は

鹿兒島より約二十度低く臺北より約二十二度冷涼なり冬一月は臺北より約十五度寒冷なれど樺太大泊よりは約三十二度溫暖なり。

雨期は南部地方と同じく五月より九月迄を雨期と稱す、盛夏六・七・八月の三箇月を中心として降雨量は甚だ多し、但し午前は概ね晴天にして午後短時間に至るものにして驟雨的に來り熱帶高山地方特有のものなり、比律賓政廳の避暑地たる呂宋島「バギオ」も海拔五千尺にして同地方最大降雨地と稱せらる、又印度政廳の避暑地「シムラ」は海拔七千二百尺にしてすべてに於て阿里山と同一にあり、頗る健康地と稱せられてゐる。

### 累年雨量及降雨日數

月 別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
雨量(耗)	五八・五	一〇九・七	一三三・七	二〇二・五	六三二・七	六四七・七	七〇三・一	七三三・四	四九六・四	一四六・一	六六・四	五七・六	三九八・〇
降雨日數	七	九	一〇	一二	二二	一九	二三	二四	一八	一二	八	七	一六九

夏季暴風期には一日五百耗(即當九石一斗六升)以上に達すること稀でない驟雨沛然として

來りたる後には満山の翠色は一段濃やかに懸崖に數條の白絲の瀧を出現する。

累年平均氣壓

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年平均
平均	五八七	五八七・二	五八七・九	五八七・九	五八七・三	五八六・六	五八六・〇	五八五・四	五八六・四	五八八・三	五八八・六	五八八・五	

一箇年の總平均氣壓は五百八十七耗四にして平地の平均氣壓七百六十耗内外に比し約二割三分稀薄なればこの氣壓に馴致せざるものには急阪を上る際稍呼吸の急速を感じるも永年居住の實驗に照し健康上些の障害なしと思はれる。

累年平均降霜日數

月別	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
降霜	一	四	九	六	三	三	三	二	二	一	一	一	一	一	一	二八

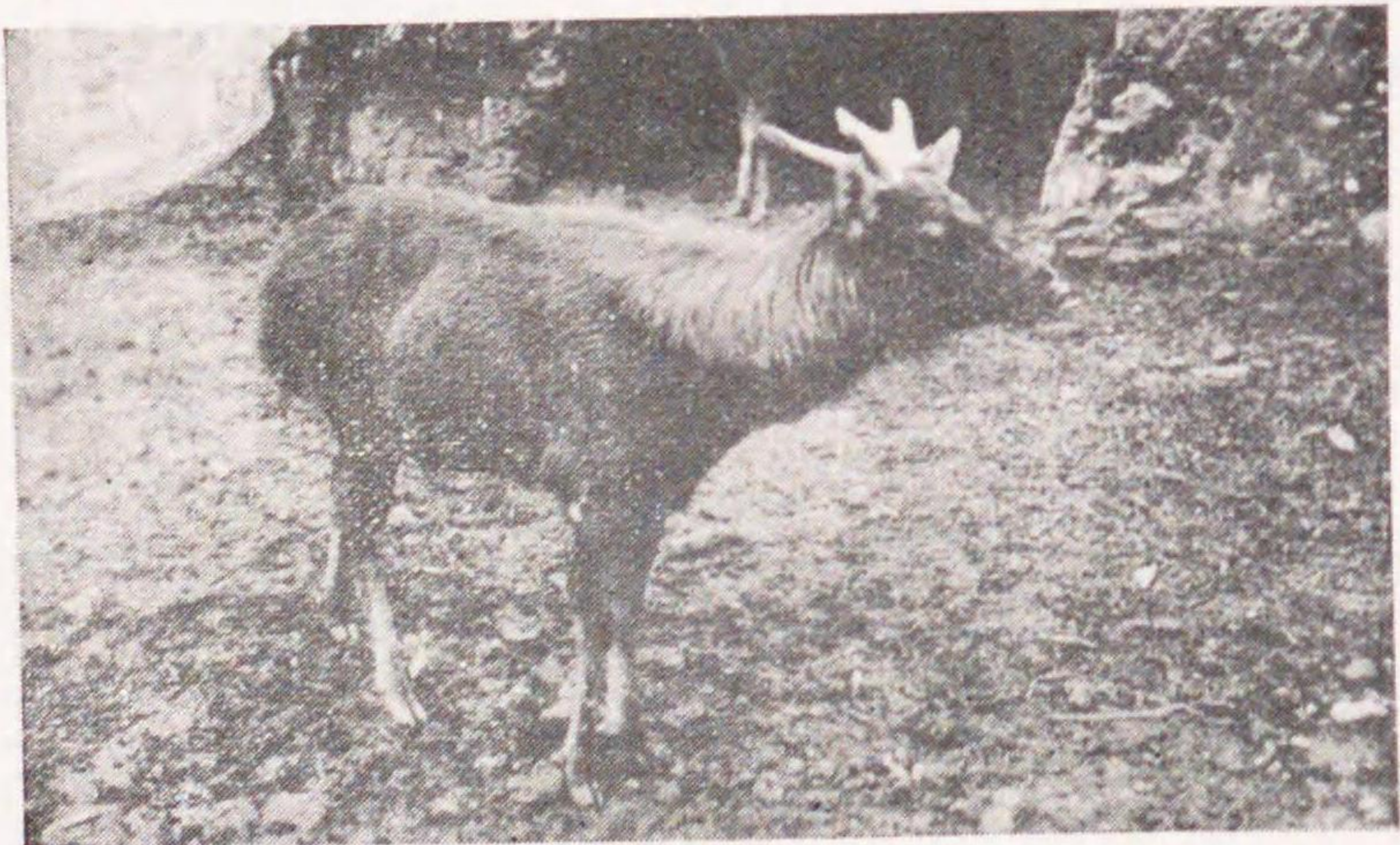
降霜は森林の伐採進むに従ひ幾分増加の傾向あり降雪は四箇年間に一回位の割合にて積雪

一寸餘に達したることはない結氷は十二月乃至翌年二月に起り晴夜の早曉に結べるを見る。

雲海と彩雲中の立像

雲海は春、夏、秋の候に顯はれるが殊に夏季が最も多い日没前に出現するを常とするその美觀は呶々を要せない。

古來深山の頂上にて大入道や大菩薩に遭遇したと云ふ傳説があるが阿里山上に



鹿 水

於ても是を實見した者が度々あるそれは一種の唇氣樓であらう、稜線上に立つて一方快晴、一方濃霧の時人や家の像が濃霧に映影するのである。

森林地帯に於ける

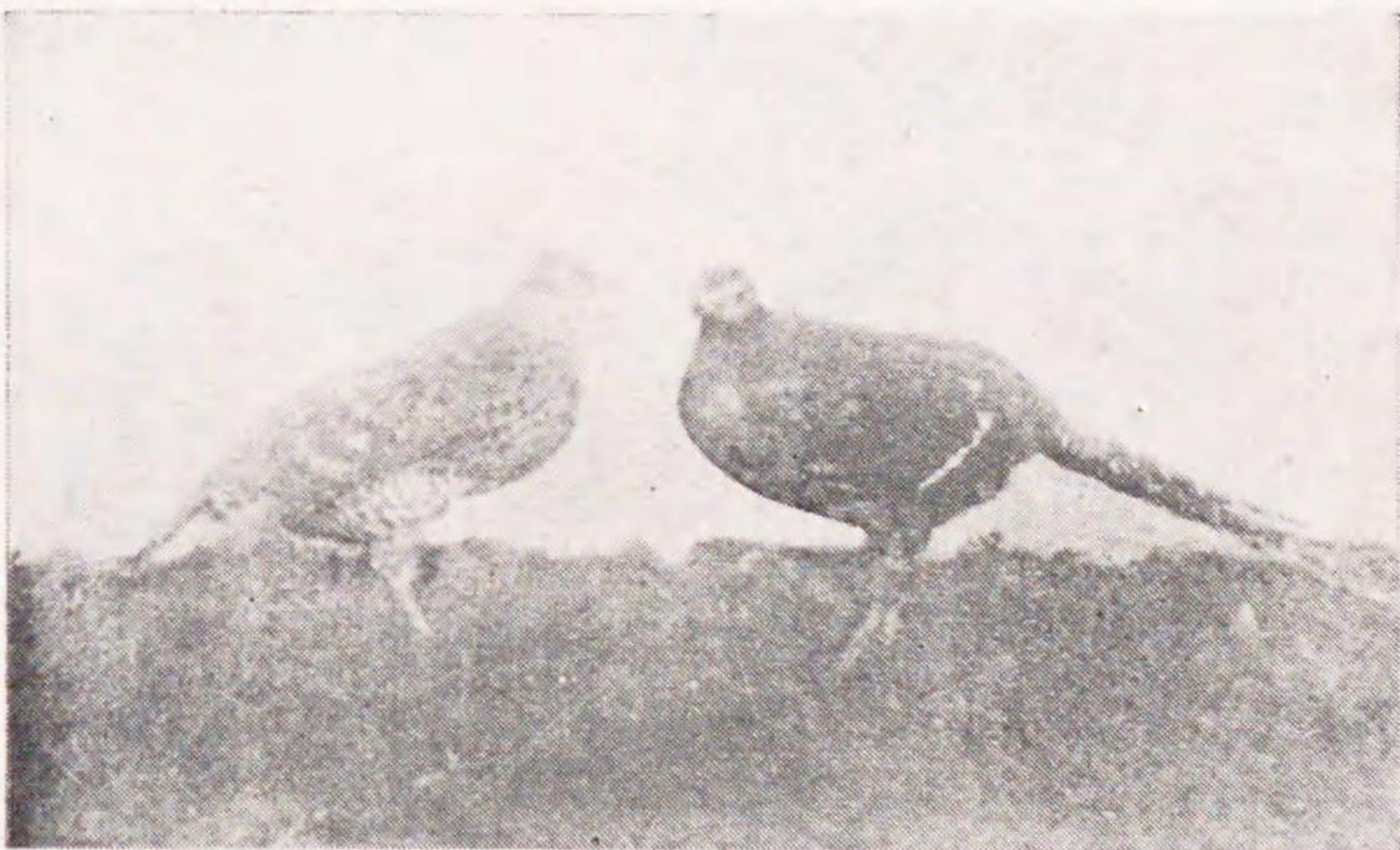
鳥獸

森林地帯には野猪、鹿、山羊の類が多く又鳥類も珍奇なものが多いこの附近に棲息する帝雉ミカドギツは世界にその類のないものとして學界に

珍重せられるものである。尙  
高山植物も少くないが近時植  
物愛好家によつてその名を知  
らるゝに至つたタイリントキ  
ソウ(一名一葉蘭)も云ふ一  
種の蘭科植物(表紙繪)は此處  
に多いがその花は佳麗を極め  
てゐる。

(附) 新高登山案内

本邦最高峰たる我新高山は  
臺中、臺南、高雄三州に跨り  
主山の標高一萬三千三十五尺  
富嶽を凌ぐこゝ六百四十八尺



子 雉 ド カ ミ

阿里山上より之を望めば直  
路五千餘尺にして雲表に聳  
ゆる雄姿は呼べば應へんこ  
する間にあり登山道路は從  
來臺中州下新高郡陳有爛溪  
を遡る所謂八通關道路の一  
路のみであつたが大正十五  
年十一月臺南州によつて阿  
里山登山口の道路開鑿せら  
れて以來登山の便は著しく  
増加し山嶽愛好家にこりて  
は此の上なき福音である。

阿里山口が八通關口に優

る點を述べるに第一行程の短縮である八通關口によれば水裡坑を立つて六日を要するのであるが阿里山口によれば阿里山より三日、嘉義驛よりするも往復五日である、次に展望の佳良なるこゝである、阿里山口は終始山脈の稜線を辿つてゐるのであるから常に眺望を恣にするこゝが出来るとその上森林あり、草原あり、或は斷崖絶壁の妙に涼々たる清流を配するあり、變化極ま  
りなく登山の興趣、眼界の變化は苦難を忘れ七里十一町にして山嶺を極めるこゝが出来る。

阿里山沼の平驛に汽車を捨つれば此處は海拔七千四百五十七尺驛構内に新高登山道路起點の木標が立つ、この木標起點より二十町餘は伐木跡の造林地で一部は舊鐵道線路跡であつて坦々たる歩道である、それより東山、兒玉山等の晝尙暗き鬱蒼たる處女林地帯に入る、扁柏、紅檜、姫子松、亞杉等の巨幹鬼嵯さして天日を蔽ふ事方數哩天下の美林である、本森林地を過ぐれば兒玉山南部の草地に出で石楠、躑躅所々に點綴し百合、堇等の野花も旅情を樂ましむるには充分である、遙に右手下方を俯瞰すればボホーユ溪。楠仔仙溪は白布を敷ける如くこれと相對して霞山の斷崖峙立せるあり風光愈々佳麗を加へる、阿里山より正に二里餘なり、更に森林地を過ぎ、草原を横ぎり進むこゝ暫時にして希望阪の險あり、道路開鑿の難を思はしむ、間も

なく第一の休泊所たる鹿林山休泊所に達する、基點より三里十九町なり、休泊所は間口五間奥行三間の木造家屋にして三十八人乃至四十人を收容するに足る、此地よりは前方遙に新高の秀峰を仰ぎ左に東埔山、過ぎ來し方を振り返りて阿里山塔山附近の斷崖屹立せるを見る、又前面は一帶の草原であつて、千數百町歩に及ぶべく一名阿里山草地と稱してゐる、山の傾斜はゆるやかで軟かな氣分に満ちてゐる、此地鹿多く阿里山蕃の獵區である、鹿林山の名はこれから來たものである。

更に東進するここ十數町にして樹の峠に至る樹の巨木が繁茂してゐる、之より急坂を下れば、タータカ鞍部に達する、鞍部の標高は阿里山沼の平と伯仲し附近に清水が滾々として湧出してゐる、一鞠すれば甘露の如く忽ち疲勞を忘れ去るであらう、前途道漸く急坂となるから水筒の水を詰めることを忘れてはならぬ、電光形の急坂を努力坂と云ふ、玉山の南面を行き眺望頗るよい、四圍の林相はこの附近より變り檜、杉類は影を没して杜松、新高五葉松等を主木とする、奮闘坂を一氣に攀づればいよく前山である、標高一萬一千尺、前山休泊所であり鹿林山休泊所を去る二里七町である、前面に楠仔仙溪を挾んで臺南、高雄、兩州の境界をなしてゐる連山

と相對して眺望誠によい、更に前進して岩石累々たる間を行くここ暫くにして道中隨一の險たる西山の險を攀づれば即ち西山に達する西山は新高五峰の一で標高一萬一千六百九十八尺、頂上は松林で下木に石楠、榎の稚樹があり蘚苔地を蔽ふた様は青毛氈を敷き詰めた様で自然の大庭園である、是を西山の靈臺と稱してゐる、又千仞の懸崖があり其の幽邃なる境地は茲に於て妙を極めてゐる、此處より下り



新高山休憩所

坂となり杜松林の清らかな苔地を過ぎ新高下休泊所に達する、前山を去るここ二十八町、楠仔仙溪（下淡水溪の上流）は實に此に源を發するのである、休泊所に近く清流あり水の便最もよい、この附近一帶は杜松と新高柏楨の密林であつて森林帯の直上に新高主山の靈姿を仰ぐとき異口同音に主山!!を叫ぶであらう、附近に法音の瀧の勝景がある、成功坂にか、れば道は電光形の急坂とな

り呼吸逼迫するのを感じる、石楠、偃柏はひびやくしんが一面に地を這ひ登るに従つてこりこまらずの如き灌木が点在し遂に無立木の岩石地となる、新高主山と南山とを連ぬる稜線に出で迎るこゝ幾何もなくして主山に達する、新高休泊所を距る二十九町標高一萬三千三十五尺、山上に新高社祠、三角點がある、登山記念の標木が林立されてゐる。

總稱新高は主山を中心に東山、北山、西山、南山の五峰は脚下にあり、山頂迄樹林をなしてゐるものは五峰唯一である、此の針葉樹林帯は稜線を以て



新高山主山絶頂

から成つてゐる、何れも一萬一千五百尺以上である、主山の頂に立つて、東面すれば東山を隔て、花蓮港の山野は一望の内に收まり際涯もなき大太平洋の大海原を望見するこゝが出来、北面すれば北山の雄姿目のあたりに屹立し北部の巒峰重疊して連つてゐる、西に眼を轉すれば西山

連互起伏し阿里山森林に連りて景觀雄大である、嘉義、臺南方面の沃野は遠く開け淡綠色に望見せられる、南山は稜線によつて南方に連り、斷崖絶壁の南玉山、又遙に大武の山嶺をも眺むるこゝが出来、留まるこゝ約一時間位にして山上の靈氣に充分親しむこゝが出来、寒氣と氣壓の低き爲め永く滞留するときは頭痛を訴へるこゝがある、歸路は阿里山口に下るのが便利であるが臺中州水裡坑口に下るのも一方法であらう、旅程は老幼壯者に依つて一律には行かないから各別に示して見れば略次のやうである。

壯者の行程(第一案)

日 程	發 地	泊 地	哩 程
第一日	嘉 義	阿里山を経て 鹿林山休泊所	鐵道四十四哩一分(嘉義發午前七時) 徒歩三里十九町(阿里山著午後二時)
第二日	鹿林山	新高下	徒歩四里二十一町(主山を極め歸路につく)
第三日	新高下	阿里山	徒歩六里十八町
第四日	阿里山	嘉 義	鐵道四十四哩一分

壯者の行程(第二案)

第一日 阿里山—新高下 徒歩六里十八町  
第二日 新高山—阿里山 徒歩八里四町(新高下より主山往復)

壯者の行程(第三案)

第一日 阿里山—新高下 徒歩六里十八町  
第二日 新高下—觀 徒歩四里十六町  
第三日 觀 高—楠仔脚萬 徒歩八里十九町  
第四日 楠仔脚萬—水裡坑 徒歩六里十六町(途中手押軌道十一哩あり)

老幼者行程(第一案)

第一日 嘉 義—阿里山 (汽車)  
第二日 阿里山—鹿林山 三里十九町  
第三日 鹿林山—新高下 二里三十五町  
第四日 新高下—鹿林山 四里二十一町(主山往復)  
第五日 鹿林山—阿里山 三里十九町

第六日 阿里山—嘉 義 (汽車)

老幼者行程(第二案)

第一日 阿里山—前 山 五里二十六町  
第二日 前 山—前 山 三里五町(主山往復)  
第三日 前 山—阿里山 五里二十六町

老幼者行程(第三案)

第一日 阿里山—鹿林山 三里十九町  
第二日 鹿林山—新高下 二里三十五町(主山往復)  
第三日 新高下—八通關 三里二十九町  
第四日 八通關—東 埔 六里二十一町  
第五日 東 埔—内茅埔 四里十一町  
第六日 内茅埔—水裡坑 四里二十六町(手押軌道の便あり)

新高登山者の注意事項



一 入蕃手續 嘉義郡警察課に立寄り入蕃許可證の下附を求むること、警察の護衛を求むるときは郡役所に其旨申出れば相當の手配を受けられるのである、入蕃手数料として金二十錢を要する。

二 宿泊所 阿里山口登山路途中休泊所は鹿林山、前山、新高下は目下のところ蕃人がるないから登山者に於て寢具及び炊爨具、食糧品を携行せねばならぬ、各泊所は四十人位迄の團體も一時に宿泊が出来、寢具は夏季は毛布一枚か二枚冬季二―三枚で充分である、食糧品は餅、食パンの如きものが適當である。

三 強力 荷物の運搬用としては蕃人を備ふことが最も得策である、阿里山俱樂部、宿屋、警察官派出所何れにても手配する筈である。

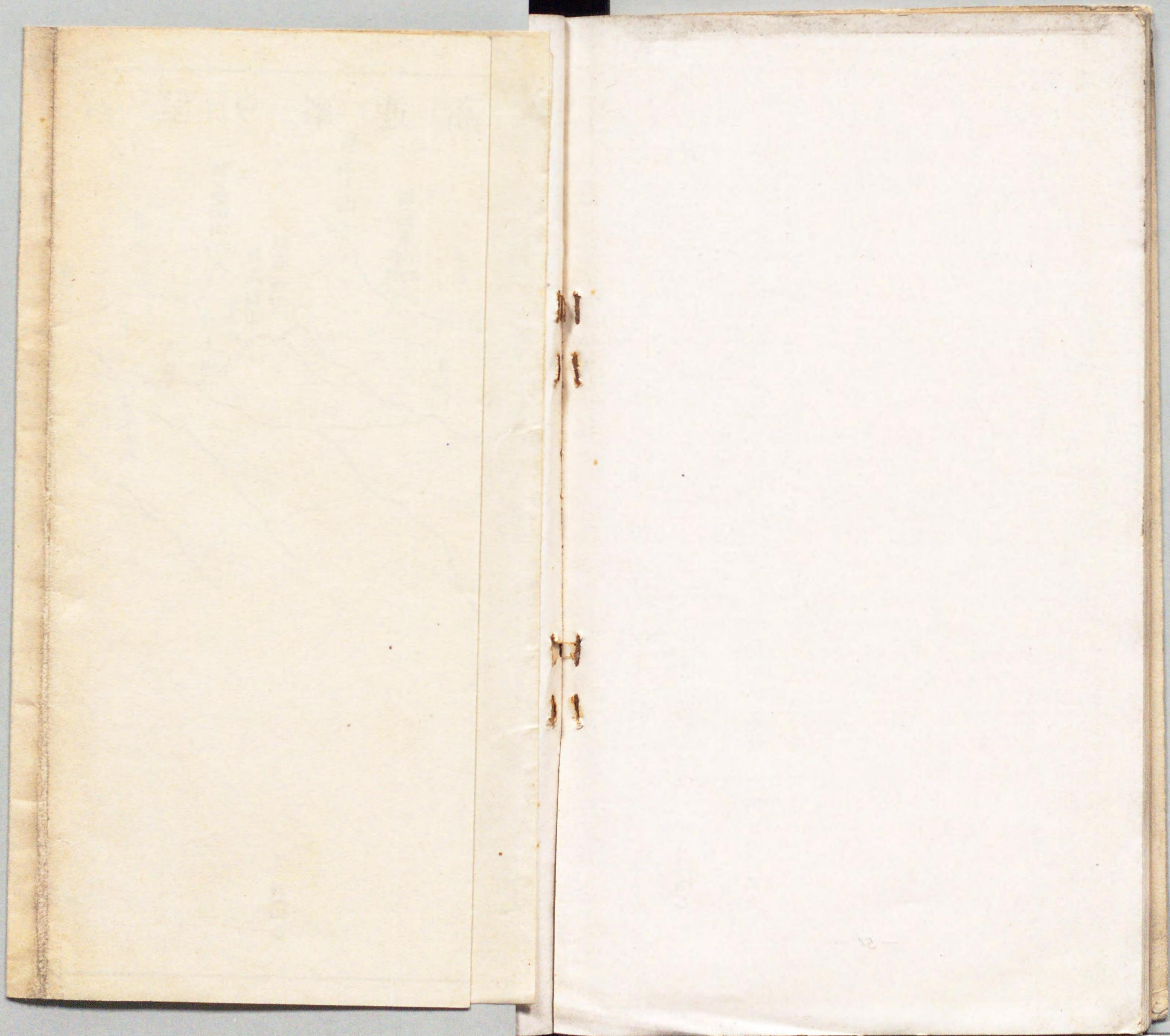
四 服装 輕快なる登山服を最も可とする、草鞋、脚絆又は地下足袋を著用するを要する。雨具としての防水マントは夏冬共必要である、帽子は竹皮笠がよい、冬は尙相當防寒衣が必要である。

五 携帶品 普通旅行用品の外出来得れば地圖、雙眼鏡、磁石、バロメーター、寫真機、手袋

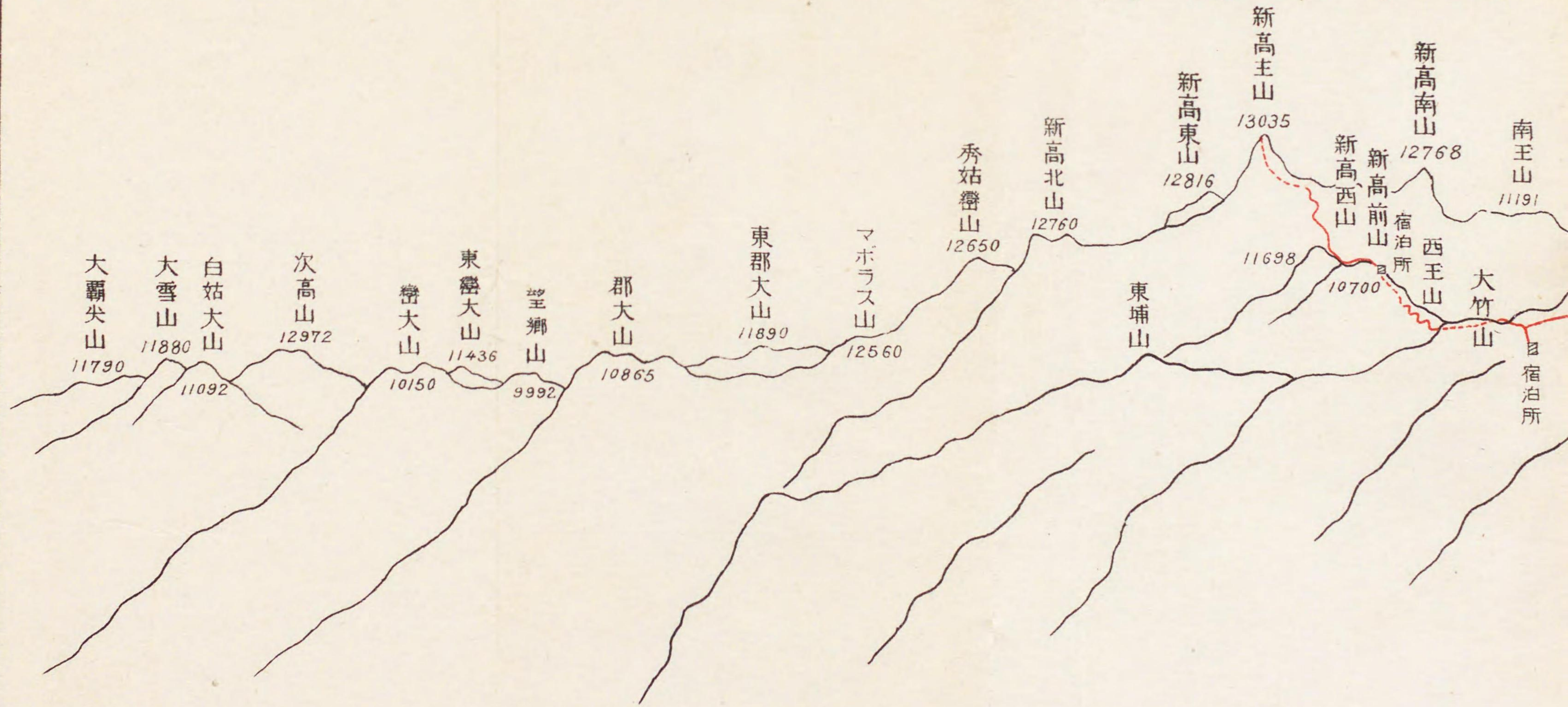
等身長金の剛杖、マッチ、胃腸藥、頭痛藥少量の「ウ井スキー」等

六 登山に不適當の者 重病直後の人、心臟特に弱き人、マラリア病直後の人、非常に肥満してゐる人、神經衰弱の人等は高山病に罹る恐がある。

七 其他參考 臺中州水裡坑に至る八通關口には内茅埔、楠仔脚萬、東埔、觀高、八通關に夫夫十數人の宿泊に便する宿泊設備がある。



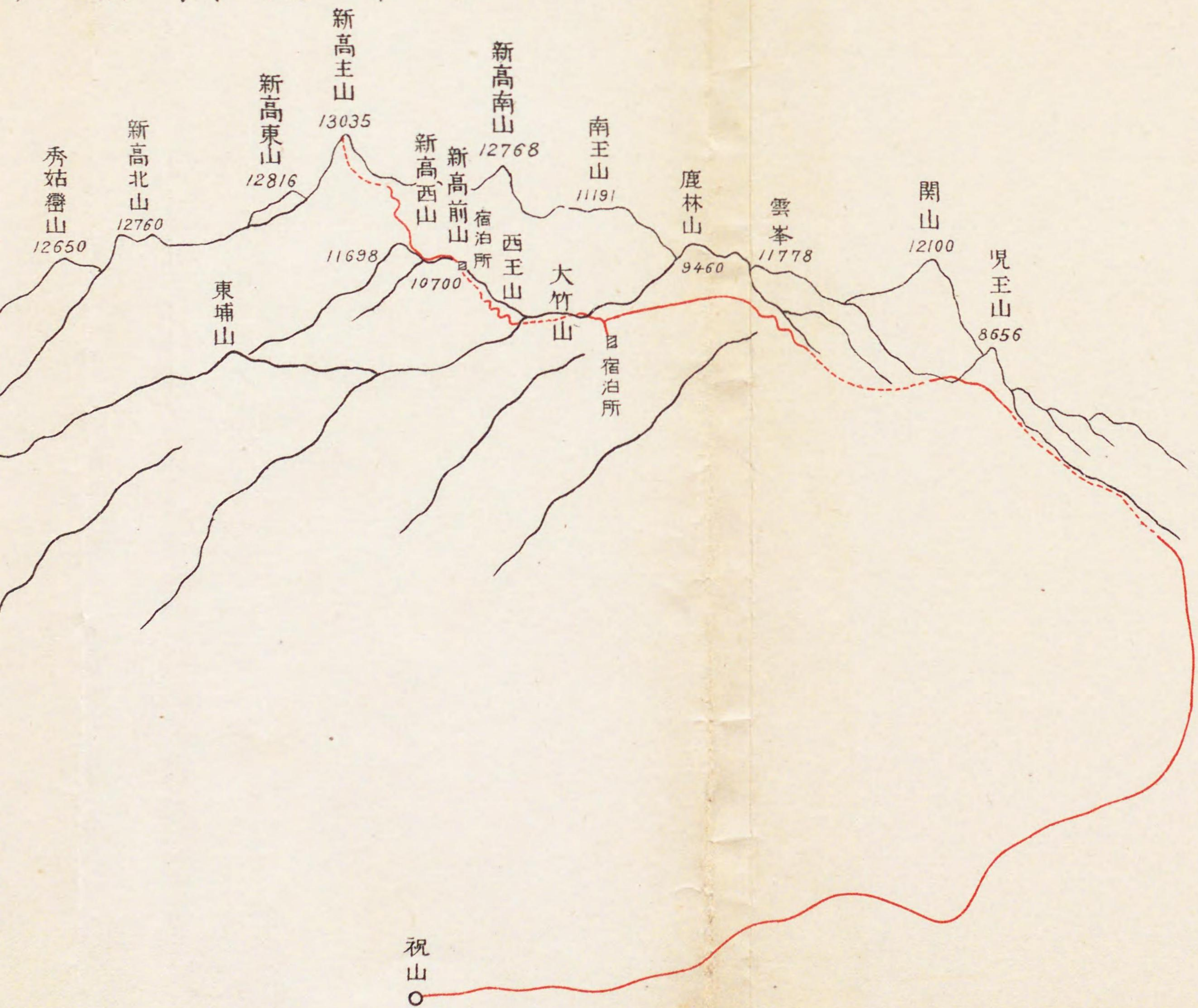
# 祝山ヨリ新高連峯ヲ望

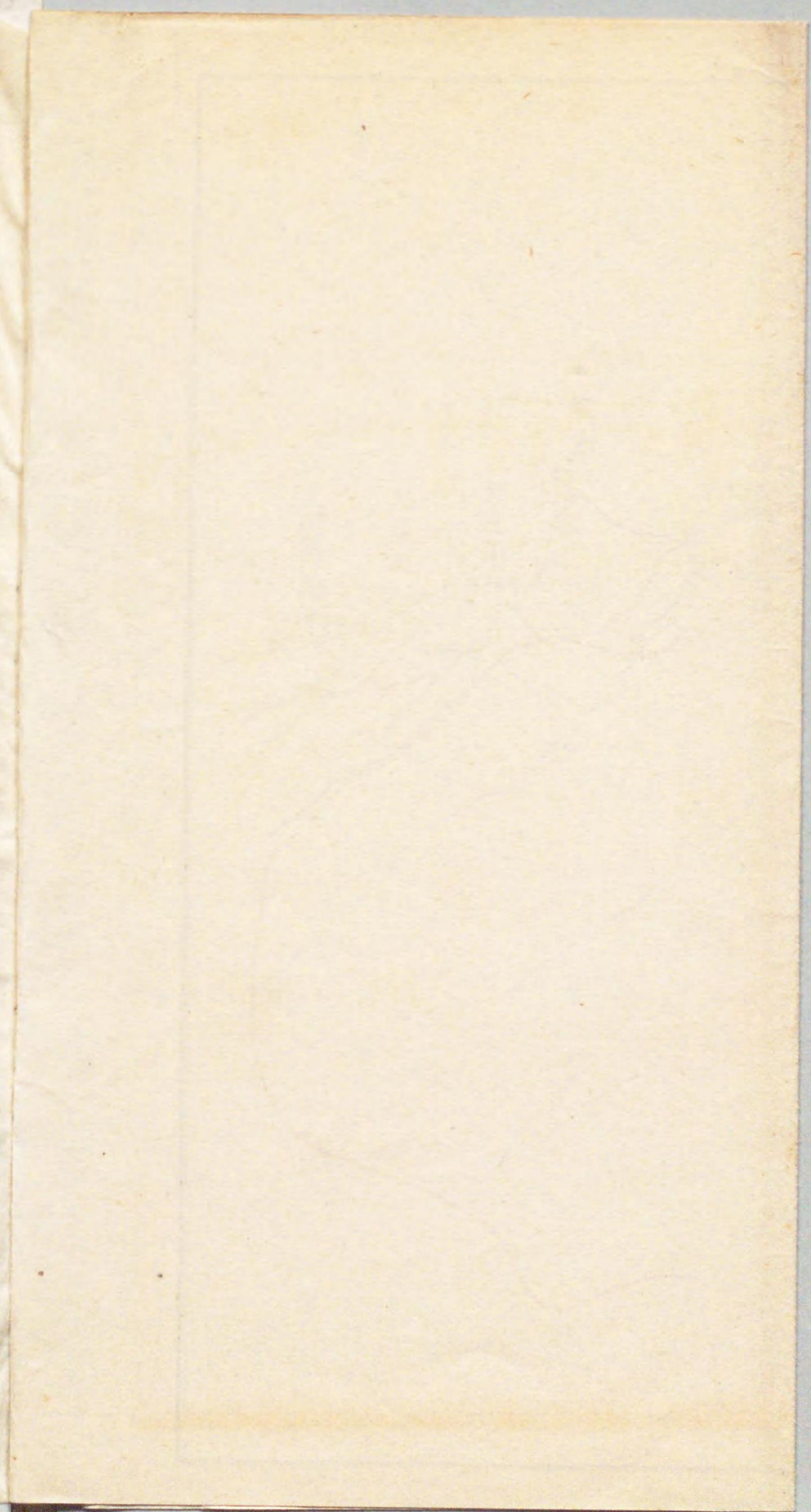
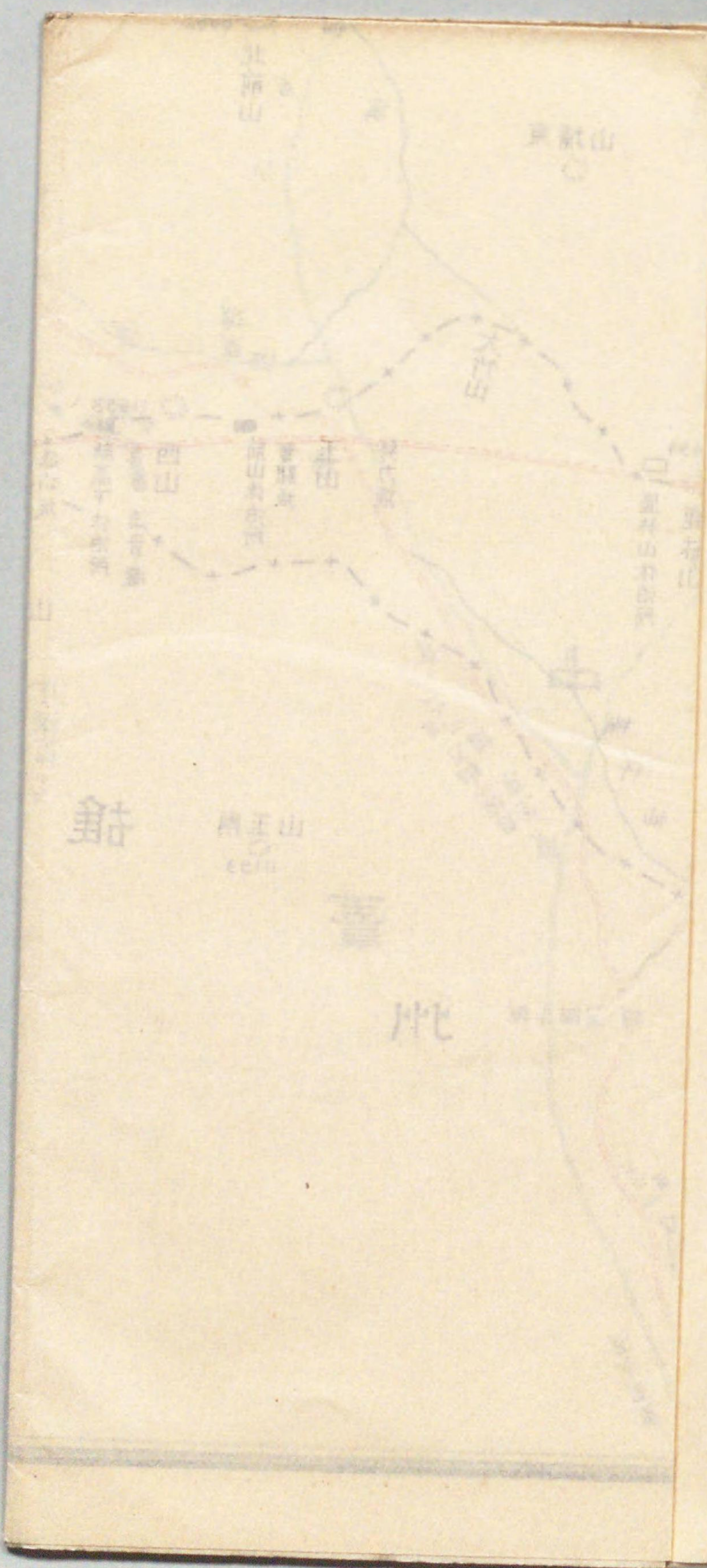


— 登山道路

祝山  
○

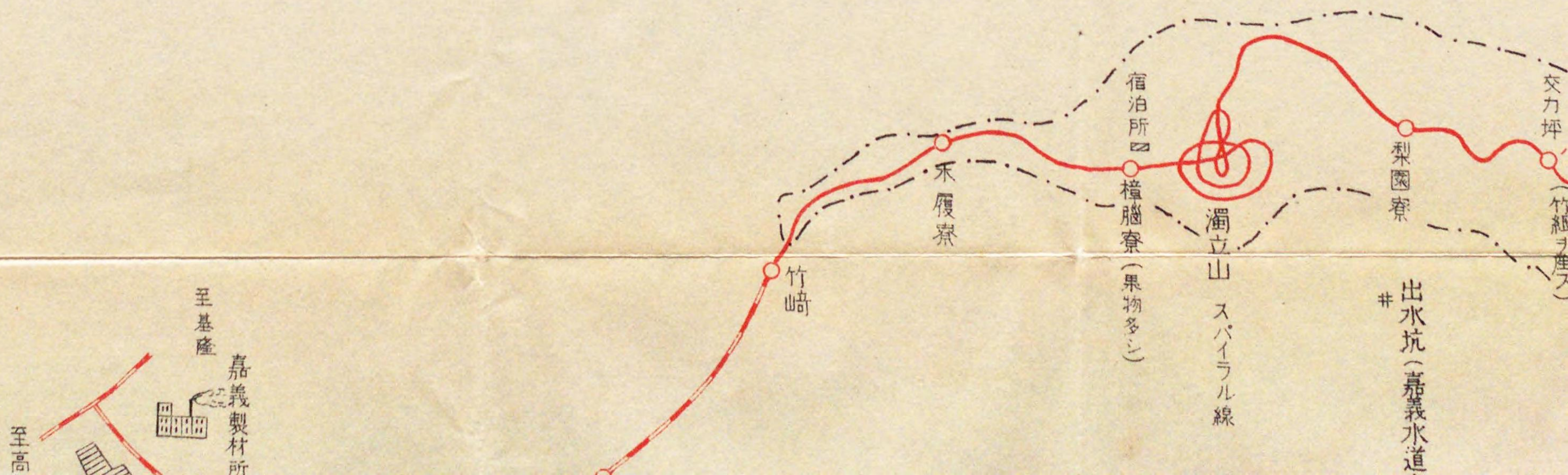
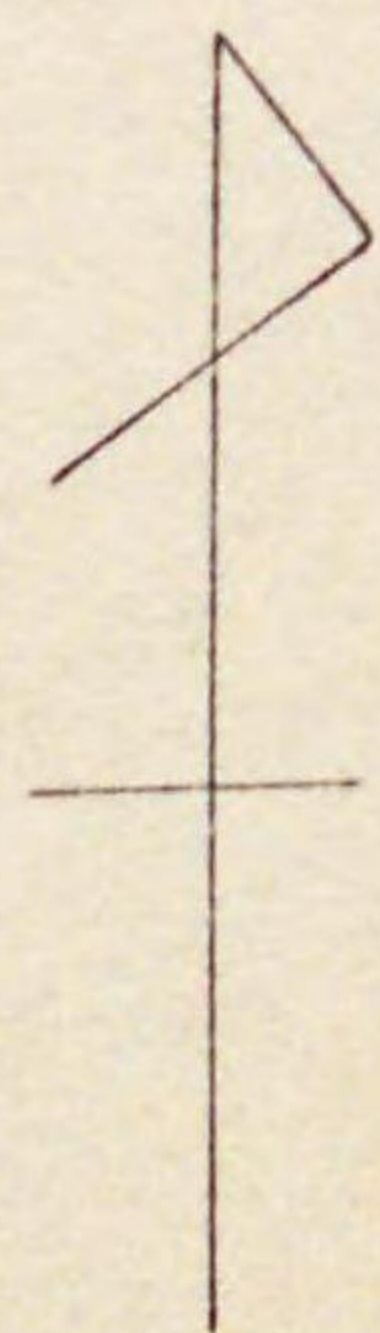
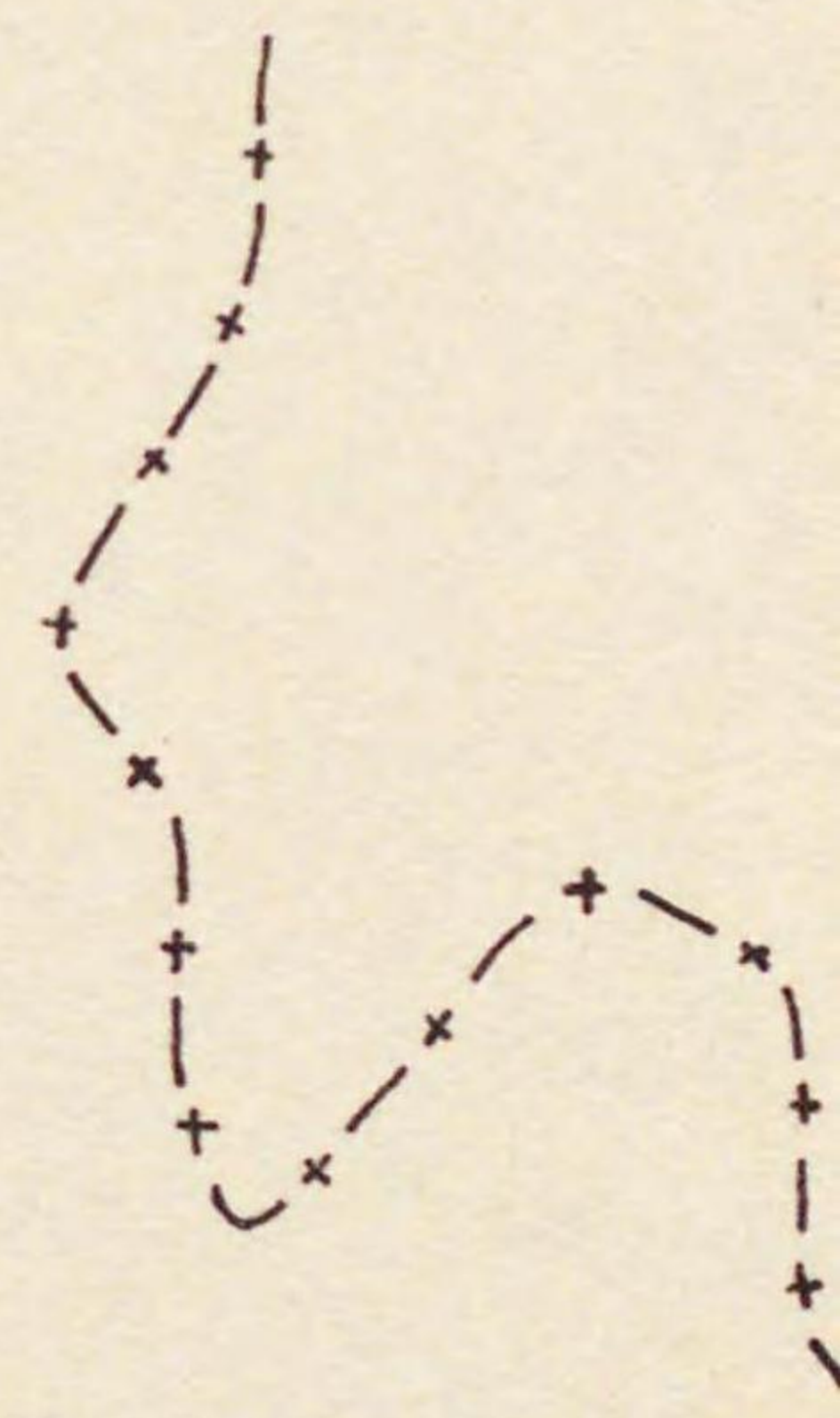
△ 望 又 峯 連 高 新 里





# 阿里山旅行案内圖

縮尺十分之一



自桐子脚乃四二六  
至水裡坑



社州

溪

阿

里

山

作

烏松坑山

杉山

(台中州日月潭ヲ望ム)

大學演習林

對高山

小笠原山

祝山

大塔山

小塔山

大龍溪線

石鼓溪

千人洞(大洞穴アリ)

達磨岩

宿泊所

後藤山

開農台

新高山

阿里山

御神木

No.1

No.2

拉拉子(蕃社)

蕃人家屋

宿泊所

舊起

福州杉山茶花油產地

幼葉林

交力坪

(竹紙ヲ産ス)

水社



臺

中

州社

望鄉山

郡大山

東埔

沙里

北前山 6062

東埔山

北山 12577

左邊水溪  
內東埔三  
橋十脚子  
至水裡坑  
四二六

萬脚子橋

陳  
四橋十  
脚子  
東埔

四橋十  
脚子  
東埔

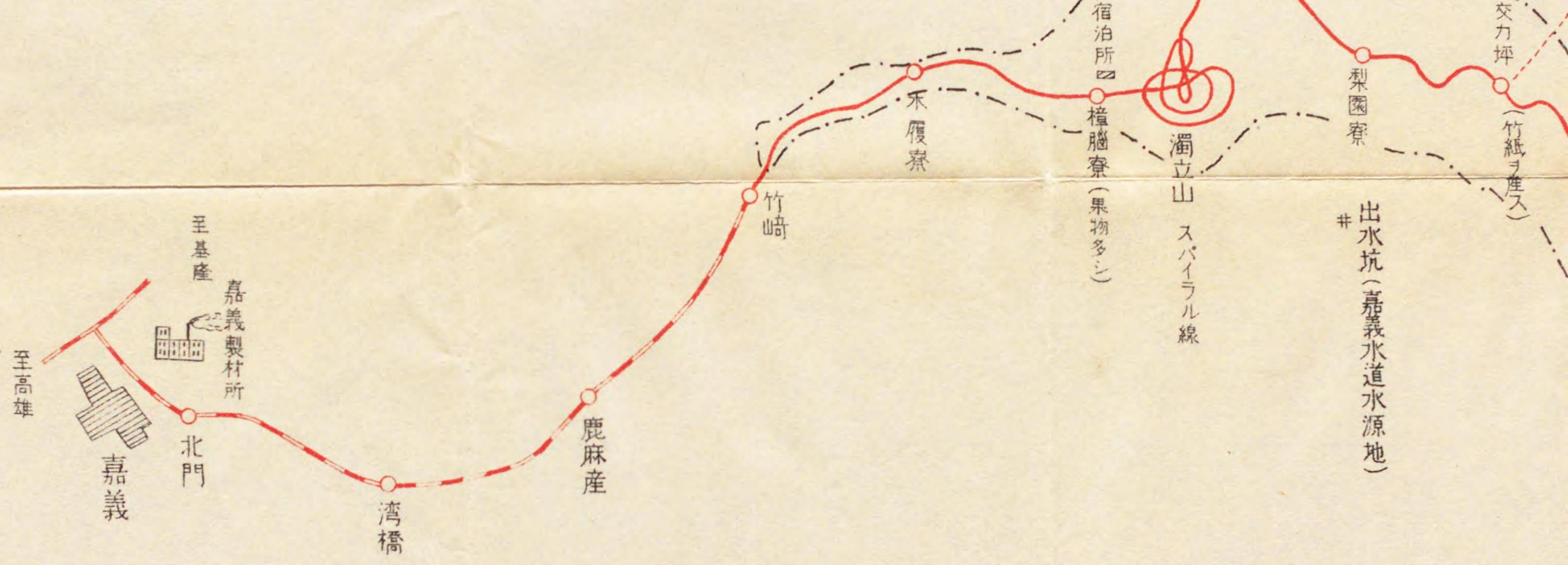
樂  
田樂  
四二六

杉山

大學演習林






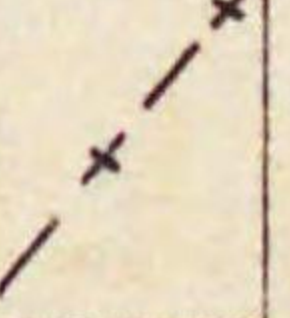
對高山  
祝山  
小笠原山





州

例 九

					
道	營林所山線	營林所營業線	溪	阿里山作業地域界	州界
路					

州

南

臺

域



梨園寮

文力坪  
(竹紙ヲ産ス)

花油產地

出水坑 (嘉義水道水源地)

水社寮  
宿泊所

奮起湖造林事務所  
俱樂部

囉囉瑪造林事務所  
宿泊所  
蕃人家屋

拉拉子 (番社)

十字路 一三〇

達邦 (番社)

頂寮 (番社)

小塔山

大塔山

阿里山

祝山

對高山

小笠原山

兒玉山 3656

水山原生林 8608

霞山 7950

作業

御神木

NO.1 スキップバック  
NO.2 スキップバック

俱樂部  
一万平

香雪山

萬崑山  
NO.4 スキップバック

平遮那

溪線

水山溪

石水溪

溪水

ホウ溪



州

雄

高

觀高自觀高〇二三  
至八通關

自八通關  
至新高山  
三〇〇

新高山  
13035  
12816  
12537

西山  
11698  
新高下休泊所  
法音瀧

玉山  
奮力坂  
前山休泊所  
奮翻坂

鹿林山  
9454  
鹿林山休泊所

石水山  
9683

希望坂

水山原生林  
8608

霞山  
7950

對高山

小笠原山

兒玉山  
8656

祝山  
8608

北前山  
6062

山北  
12577

東埔山

大竹山

東山  
12816

山玉南  
1193

昭和二年十月二十五日印刷  
昭和二年十月二十八日初版  
昭和三年三月三十一日再版

臺灣總督府營林所

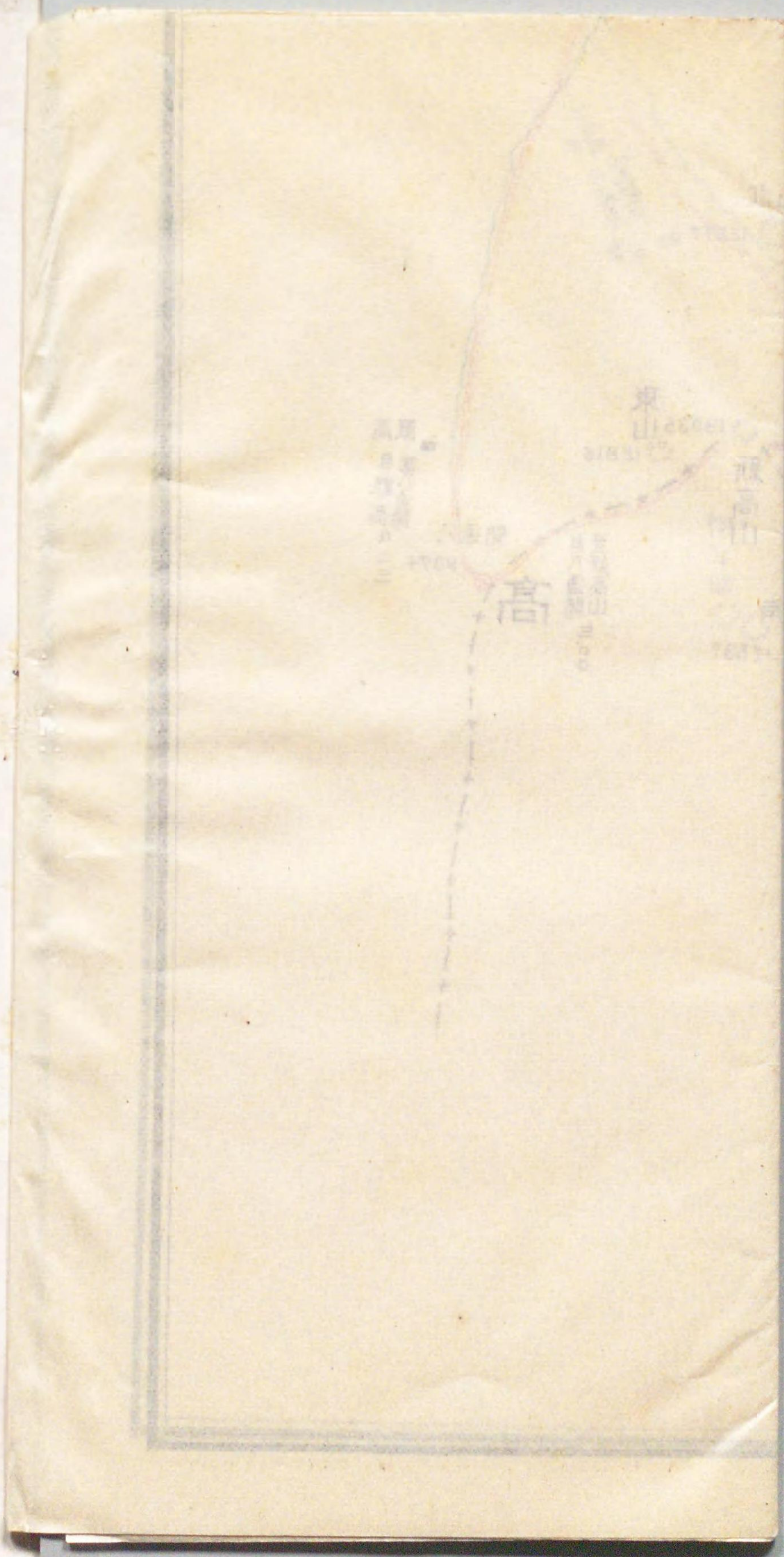
印刷者

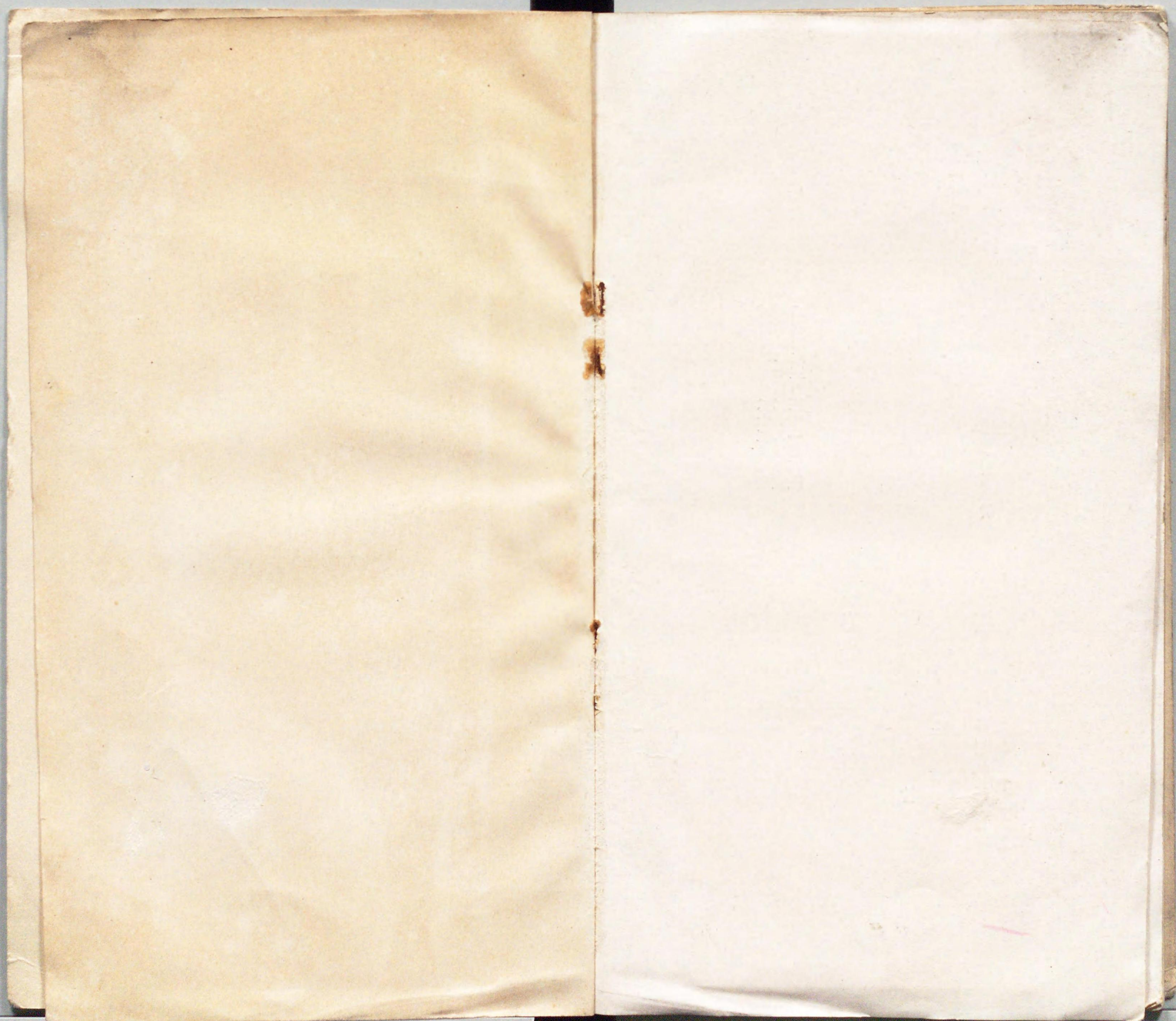
穎川首

印刷所

株式會社 臺灣日日新報社

臺北市榮町四丁目三十二番地





321  
128

